

平成26年度

香芝市の教育に関する事務の  
管理及び執行の点検及び評価報告書

(平成25年度対象)

平成26年8月

香芝市教育委員会

## 目 次

はじめに	1
1. 施策の点検・評価	
(1) 平成26年度点検・評価事業一覧	2
(2) 各点検評価シート	4
2. 知見者の意見	54
3. 資料	
(1) 教育委員会の概要	58
(2) 教育委員会の活動状況	59
(3) 会議の開催状況	60
(4) 平成26年度 教育部重点目標	61
(5) 学校教育の指導方針	64
(6) 児童・生徒・園児数一覧	69

## はじめに

『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』により、教育委員会では、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに市民に公表することが義務づけられています。

この報告書は、同法の規定に基づき、本市教育委員会が実施した平成25年度事業のうち、主な事業を対象に点検・評価を行った結果をまとめたものです。

香芝市教育委員会

## 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(昭和31年法律第162号)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1. 施策の点検・評価

(1) 平成26年度点検・評価事業一覧

政策名	施策名	主な取組事項	主な事業	所属
次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち	家庭・地域の教育力の向上	家庭教育の充実	家庭教育学級育成事業	生涯学習課 P6
			合同学習会事業	
		地域教育力の向上	学校・地域パートナーシップ事業	学校教育課 P8
			放課後子ども教室事業	
	就学前教育の充実	幼児教育の充実	幼稚園教育力向上事業	学校教育課 P10
			未就園児支援事業	
			幼稚園運営事業	総務課 P12
			幼稚園教育振興事業	
		幼稚園教育環境の整備	幼稚園施設耐震化事業	総務課 P14
			幼稚園施設維持管理事業	
	学校教育の充実	児童生徒の学力・体力の向上	国際理解教育推進事業	学校教育課 P16
			体力向上推進事業	
			小・中学校運営事業	総務課 P18
			小・中学校教育振興事業	
		安心して学べる教育環境の整備	児童生徒包括的支援事業	学校教育課 P20
			特別支援教育推進事業	
			学校給食事業	総務課 P22
			教育施設耐震化事業	
		信頼される学校づくり	教職員資質向上事業	学校教育課 P24
			開かれた学校づくり推進事業	
	子ども・若者のフォローアップ (青少年の健全育成)	子どもの居場所づくり	子どもフェスティバル事業	生涯学習課 P26
			青少年野外活動センター管理運営事業	
			成人式事業	
		広報啓発の強化	「少年の主張」事業	青少年センター P28
広報啓発活動事業				
子ども見守り活動の推進		市内特別巡視事業	青少年センター P30	
体験学習の機会の提供		子ども体験事業	青少年センター P32	
適応指導の充実		適応指導教室事業	学校教育課 P34	

政策名	施策名	主な取組事項	主な事業	所属
次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち	「だれでも・どこでも・いつでも」学び・楽しめる環境の充実	学童保育の充実	学童保育運営事業	学校教育課 P36
		生涯学習機会の充実	市民公開講座事業	生涯学習課 P38
			市美術展覧会事業	
			学級生大会事業	
		スポーツ団体の支援	スポーツ少年団支援事業	生涯学習課 P40
			各種団体支援事業	
		中央公民館活動の活性化	生涯学習機会提供事業	中央公民館 P42
			登録団体育成事業	
		図書館機能の充実	図書館資料提供事業	市民図書館 P44
			子どもの読書活動推進事業	
スポーツ施設維持・運営事業	社会体育施設運営事業	生涯学習課 P46		
	社会体育施設維持整備事業			
みんなで創る豊かで将来性のあるまち	歴史文化財の保存と継承・展開	博物館機能の充実	学習環境充実事業	二上山博物館 P48
			学校教育連携協力事業	
		尼寺廃寺跡史跡整備の推進	尼寺廃寺跡史跡整備推進事業	生涯学習課 P50
		文化財の保護・管理	文化財保護啓発事業	生涯学習課 P52
			文化財保護審議会事務局事業	

## (2) 各点検評価シート

点検評価シートの説明

### 主な取組み事項名称

担当課 (担当施設名称)

総合計画の 位置付け	第4次総合計画での位置付け 政策名： 施策名： 主な取組み事項：
目的	主な取組み事項の目的を記入

主な取組み事項の経緯

<b>・主 な 事 業</b>	
1. 主な事業名称	・法での義務づけ ・各種計画での位置付け
〈目的〉	・市民ニーズ ・対象とする人数 ・緊急性 等
〈取組みの状況〉	・事業効果の高さ ・本来の目的以外の効果はあるか
〈成果〉	・実施による効率性 ・経済的 ・物件費の縮減の有無
〈評価〉	評価基準 <b>A</b> ・達成している。(100%) ・現時点で予定通りの進捗状況である。 <b>B</b> ・ほぼ達成している。(80%) ・現時点でほぼ予定通りの進捗状況である。 改善の余地が残されている。 <b>C</b> ・概ね達成している。(60%) ・現時点で、少し予定よりも遅れている状況である。 達成には努力が必要である。 <b>D</b> ・達成できていない。(50%以下) ・現時点で、予定を達成できていない。 達成には、相当の努力が必要である。
2.	主な事業の決算額(千円未満切り捨て) ・予算が無い場合は『-』 ・総合計画見直しにより新規の事業の場合は『-』
〈目的〉	行政関与の 必要性
〈取組みの状況〉	有効性
〈成果〉	効率・経済性
〈評価〉	24年度決算(千円)      - 25年度決算(千円)      -
〈目的〉	行政関与の妥当性      総合評価
〈取組みの状況〉	必要性
〈成果〉	有効性
〈評価〉	効率・経済性 24年度決算(千円) 25年度決算(千円)

**・活 動 指 標**

事業名	活動名	指 標	H23 年度 実績	H24 年度 実績	H25 年度 実績	H26 年度 予定	将来目 標 (平成 32 年度)	備 考
主な事業名称	活動名	決算 (予算)額 (千円)					-	
	活動名							
主な事業名称								

事業内容がわかり  
やすい指標の設定

千円未満切り  
捨て

総計の中間年の 32 年度の目標値  
該当数値がない事業については  
『-』の表示

指標や実績値につい  
ての説明事項を記入

予定の場合は  
予算額を記入。

事業内容がわかる写真等

【写真の説明】

主な取組み事項の『課題』を、  
記載する。

《課題》

主な取組み事項の『今後の取組  
み』を、記載する。

《今後の取組み》

- 記入上の注意点**
- ・文字のポイントは原則 10 p です。入りきらない場合は、小さくして下さい。
  - ・各表題の文字の大きさ、送り仮名、括弧などは変更しないでください。
  - ・数字、アルファベット、コンマ、括弧は半角にして下さい。
  - ・フォントは MS 明朝で統一して下さい。
  - ・表の横幅は変更しないでください。

# 家庭教育の充実

## 生涯学習課

総合計画の 位置付け	政策名 : 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名 : 家庭・地域の教育力の向上 主な取組み事項 : 家庭教育の充実
目的	学級生が学習に取り組める環境を整備し、生涯学習に取り組むことを通じて豊かで生きがいのある地域社会の実現をめざすとともに、地域・家庭・学校・行政等の連携のもと、親子関係のあり方や基本的な生活習慣、思いやりの心の育成など、地域コミュニティづくりを目指す。

主な取組み事項の経緯
学級の実情にあった学習内容に取り組むことにより、地域教育力の向上につながっている。また、合同学習会については、学習の質の向上と学級生同士の情報交換や交流を図ってきた。

### ・主な事業

<b>1. 家庭教育学級育成事業</b>			
〈目的〉 家庭教育は、子どもの人間形成上重要な役割を担うものであるため、保護者が家庭教育に関する学習や交流を通じて、その成果を家庭や地域に還元することを目的とする。 〈取組みの状況〉 各家庭教育学級が、自主的に学校、地域公民館等を利用し、また、行政との連携を図りながら、その主体性を尊重し、学級生のさらなる参加を呼びかけた。 〈成果〉 平成25年度においても、子育ての悩みを抱える学級生の参加が見られ、学習意欲の向上が見られた。 〈評価〉 家庭教育学級は、学級生と学校及び行政との連携が図られ、学習内容も連携した活動が見られた。	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必要性	A	B
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	24年度決算(千円)	806	
	25年度決算(千円)	835	
<b>2. 合同学習会事業</b>			
〈目的〉 学級生が、社会教育学級において学ぶ意識の向上を図り、各学級及び学級生同士の連帯感を高めることを目的とする。 〈取組みの状況〉 社会教育学級生が皆で楽しめる学習内容でテーマ等を設定した。 〈成果〉 テーマ等を明確に設定することにより、学習意欲や学級生同士の交流が図れた。 〈評価〉 学級生同士のコミュニケーションが活発になってきており、参加者の学習意欲の向上が図られた。	行政関与の妥当性	B	総合評価
	必要性	B	B
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	24年度決算(千円)	93	
	25年度決算(千円)	204	

## ・活動指標

事業名	活動名	指標	H23年度 実績	H24年度 実績	H25年度 実績	H26年度 予定	将来目標 (平成32年度)	備考
家庭教育学級 育成事業	学級運営	学級数	12	12	12	12	12	
		学級生数	251	252	260	260	357	
		決算(予算) 額(千円)	764	806	835	1,167	1,200	学級活動の充実
合同学習事業	合同学習会	開催数	3	2	2	—	—	平成26年度より「家庭教育学級育成事業」 に統合
		参加者数	312	276	187	—	—	
		決算(予算) 額(千円)	78	93	204	—	—	



【家庭教育学級活動】



【合同学習会】

### 《課題》

家庭教育学級生は、乳幼児を持つ親が多いため、活動・事業を行うには、託児の必要性があると考えられることから、学習方法、学習場所並びに開催日等を工夫するとともに、テーマ等を的確に捉え、参加しやすい環境づくりが必要である。

### 《今後の取組み》

学校・地域・家庭・行政との連携を図り、心豊かな子どもを育てるためにも、テーマ等の学習内容の検討や世代間交流など、活動の場が広がるような、学習活動の充実を図っていきたい。

# 地域教育力の向上

## 学校教育課

総合計画の 位置付け	政 策 名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施 策 名：家庭・地域の教育力の向上 主な取組み事項：地域教育力の向上
目 的	青少年による犯罪、いじめ、不登校など、児童生徒をとりまく様々な問題が発生し、家庭や地域の教育力の低下が叫ばれている。子どもの教育を学校だけにまかせるのではなく、家庭・地域総がかりで子どもの教育を推進し、地域全体の教育力を向上させることが必要である。

主な取組み事項の経緯	
<p>学校と地域の連携として、平成 20 年度から「学校支援地域本部事業」の名称で、地域全体で学校を支援する「学校の応援隊」として、いろいろな活動を通じて、地域の教育力向上を図ってきた。23 年度から 2 年間は「放課後子ども教室推進事業」を併せて、「学校・地域連携事業」とし、さらに、25 年度からは、「学校・地域パートナーシップ事業」として地域の教育課題の解決に向けて、地域ぐるみで子どもたちの成長を支える様々な取り組みが行われている。</p>	

### ・主 な 事 業

<b>1. 学校・地域パートナーシップ事業</b>				
<p>〈目的〉 教育課題である規範意識や社会性の向上を図るため、保護者・地域が「参画」し、教職員・保護者・地域住民が「協働」して、課題の解決に向けて取り組む。</p> <p>〈取組みの状況〉 全ての小・中学校に校務分掌として「コミュニティ部」を設置すると共に、各学校に「学校コミュニティ協議会」を設け、学校と保護者・地域が子どもたちの教育課題を共有し、様々なボランティア活動が行われる。</p> <p>〈成果〉 平成 25 年度から「学校・地域パートナーシップ事業」という新たな枠組みで補助事業がスタートし、それぞれの学校において、登下校時の安全見守り活動や学習支援活動など学校と保護者・地域が連携して取り組むことができた。</p> <p>〈評価〉 各小・中学校に、「コミュニティ部」及び「学校コミュニティ協議会」を設け、学校と保護者・地域の連携が今まで以上に組織的に図れたが、学校全体としての事業に対する理解が不十分なところがある。</p>	行政関与の妥当性	B	総合評価  B	
	必要性	A		
	有効性	A		
	効率・経済性	B		
	24 年度決算(千円)			2,373
	25 年度決算(千円)			2,338

2. 放課後子ども教室事業			
<p>《目的》 近年の少子化による兄弟姉妹の減少、地域のつながりの希薄化、子どもの安全を脅かす事件や事故の増加などが要因となり、放課後に異年齢の子ども同士、友だち同士で過ごす機会が少なくなっている中で、放課後に子どもたちの安全で健やかな居場所を提供する。</p> <p>《取組みの状況》 平成19年度から、放課後の学校施設を利用し、地域のボランティア人材との交流や学習支援を行っている。現在6校で実施している。</p> <p>《成果》 放課後子ども教室は6校で実施、25年度より畿央大学と連携し真美ヶ丘東小学校を対象に「冒険遊び場」を実施した。</p> <p>地域スタッフによる自主的な活動により地域との交流機会が増加した。参加者も1年生から6年生までの児童145名が登録し、地域ボランティアも延べ102名が参加した。</p> <p>《評価》 大学との連携や、地域の異世代・異年齢との交流、一部の教室では学童保育所との交流もあり、児童の精神的な自立を目指す機会を提供することができた。</p> <p>しかし、今後においては活動内容のマンネリ化を防止するため、指導員のスキルアップが必要である。</p>	行政関与の妥当性	B	総合評価  B
	必要性	A	
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
		24年度決算(千円)	
	25年度決算(千円)		1,582

### ・活動指標

事業名	活動名	指標	H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	H26年度予定	将来目標(平成32年度)	備考
学校・地域パートナーシップ事業	学校支援活動	ボランティア登録数	152	161	162	200	500	
		決算(予算)額(千円)	2,253	2,373	2,338	2,563	—	
	放課後子ども教室	実施教室数	5	5	6	6	10	
		決算(予算)額(千円)	1,360	1,432	1,582	1,831	—	

#### 《課題》

学校・地域パートナーシップ事業については、各学校において、管理職のリーダーシップのもと、更なる教職員の理解と協力が必要である。

放課後子ども教室事業については、市内全小学校での実施を目指し、スタッフの確保とスキルアップが必要である。

#### 《今後の取組み》

各中学校区のコミュニティ協議会の代表からなる「香芝市学校・地域パートナーシップ事業連絡協議会」を設け、各校区の活動を参考にし、学校教育活動の充実、地域教育力の向上を図っていききたい。

放課後子ども教室については、地域の人材や組織（老人会・子ども会・その他地域グループ等）との連携を図っていききたい。

# 幼児教育の充実

## 学校教育課

総合計画の 位置付け	政 策 名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施 策 名：就学前教育の充実 主な取組み事項：幼児教育の充実
目 的	小学校への就学前の幼児に対して、小学校就学を見据え、健康な心と体を育むとともに、自立心や人と関わる力を養うため、幼稚園教育の充実を図ることが必要である。

主な取組み事項の経緯
公立幼稚園として地域に根ざした幼児教育に徹し、他の幼稚園や保育所、就学する小学校、また中学校としっかりとした連携を図るとともに、それぞれの幼稚園で工夫した、特色ある園づくりを進めてきた。

### ・主 な 事 業

<b>1. 幼稚園教育力向上事業</b>			
<p>〈目的〉 人格形成の基礎となる幼児期の教育を担当する機関としての重要性を認識し、市立幼稚園としての特色を生かし魅力ある教育を進める。</p> <p>〈取組みの状況〉 英語を母国語とする外国語指導講師をすべての市立幼稚園に派遣し、体験的な英語学習活動を取り入れながら、園児が、英語に親しむ機会を持った。</p> <p>〈成果〉 園児が、外国人や英語の体験活動を通して、異文化に触れることにより、新しいことを学ぶことに興味を持つことができた。また、自分の思いを周りの人に伝えることの大切さを学んでいる。</p> <p>〈評価〉 好奇心旺盛な園児にとって、外国人や英語とのふれあいは意義のある学習活動である。小学校で様々な学習をするが、学ぶことの楽しさを感じることでできる取組みである。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価  B
	必 要 性	B	
	有 効 性	B	
	効率・経済性	B	
	24年度決算(千円)		
25年度決算(千円)			174
<b>2. 未就園児支援事業</b>			
<p>〈目的〉 将来、就園する子どもや保護者が参加し、幼稚園での生活やルールなどを学ぶ。また、親子で行事に参加し子育ての楽しさや子ども同士の交流を図る。</p> <p>〈取組みの状況〉 未就園児を対象の行事は、全ての市立幼稚園で行われ、合計101日にのぼった。運動会やおもちつきなどの行事やゲーム遊びなどの活動への参加を通して、幼稚園児と一緒に、楽しく、有意義に活動ができた。</p>	行政関与の妥当性	B	総合評価  B
	必 要 性	A	
	有 効 性	B	
	効率・経済性	A	

<p>《成果》 幼稚園は、親や家庭から離れ、初めての集団生活となる場であるが、就園前に前もって幼稚園での生活を体験することは、幼児や保護者には、安心感を持って、より円滑な幼稚園生活につながる事ができている。</p> <p>《評価》 未就園児対象の本事業は、4歳児からの2年制保育を実施している本市にとっても、幼稚園への入園を希望する幼児やその保護者とつながりを持つことができるよい機会である。保護者にとっても、事前にいろいろな情報を得ることができ、安心して就園を迎えられると高評価を得ている。</p>	24年度決算(千円)	—
	25年度決算(千円)	—

### ・活動指標

事業名	活動名	指標	H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	H26年度予定	将来目標 (平成32年度)	備考
幼稚園教育力向上事業	幼稚園英語活動支援	回数	30	30	27	27	27	
		決算(予算)額(千円)	653	262	174	179	—	
未就園児支援事業	未就園児対象行事	実施園	9	9	9	9	9	
		決算(予算)額(千円)	—	—	—	—	—	

### 《課題》

本市の市立幼稚園は、4歳児からの2年制保育であるが、保護者からは3歳児からの保育を希望する声が多く、また、子育て支援や就学前教育に対する要望も強い。そのような現状を踏まえ、未就園児や保護者を対象に幼稚園と交流する機会を多く持ち、そのニーズに応えていく必要がある。

### 《今後の取組み》

特色ある幼稚園づくりとして、国際理解教育や、他の幼稚園や保育所、就学する地域の小学校と連携をとり創意工夫した活動などに取り組んでいきたい。

また、今後検討されるであろう「認定子ども園」を視野に入れ、3歳児からの3年制保育についても考えていかなければならない。

# 幼児教育の充実

総務課

総合計画の 位置付け	政 策 名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施 策 名：就学前教育の充実 主な取組み事項：幼児教育の充実
目 的	保育の充実と、幼稚園・保育所・小学校の連携を図ることにより小学校教育への移行を円滑に行えるように、健康な心と体を育むとともに、豊かな人間性の育成を目的とする。

主な取組み事項の経緯
特色ある幼稚園運営や就学前教育の充実を進めるために、教職員の研修会へ参加を助成するとともに、幼稚園の施設・整備・備品など環境の整備を図る。

## ・主 な 事 業

<b>1. 幼稚園運営事業</b>			
<p>〈目的〉 幼児一人ひとりの心身の発達や特性をふまえ、教職員の指導力向上のための研修費助成、また、幼児の健やかな成長を図れるよう環境整備を目的とする。</p> <p>〈取組みの状況〉 幼児教育に必要な研修会参加補助や、幼稚園運営に必要な物品・教材等の整備を図る。</p> <p>〈成果〉 園児が楽しみながら体を動かせることにより、リズム感や運動能力の向上につながった。備品や教材を整備することにより、円滑な幼稚園運営と保育指導が図れた。</p> <p>〈評価〉 幼稚園の備品については、各園の要望及び実態を取り入れた。 それにより、教育環境の充実を図ることができた。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必 要 性	B	B
	有 効 性	B	
	効率・経済性	B	
	24年度決算 (千円)	49,256	
	25年度決算 (千円)	44,301	
<b>2. 幼稚園教育振興事業</b>			
<p>〈目的〉 幼稚園教員のより資質の高い保育指導のための研修会の参加や幼稚園教育の振興の充実・発展を目的とする。</p> <p>〈取組みの状況〉 全園児を対象とした運動会・各種行事について、記念品を贈呈した。また、教員の研修会の実施の補助をした。</p> <p>〈成果〉 教員の研修会の参加により、資質の向上及び指導力の向上が図れた。</p> <p>〈評価〉 研修会等を行い幼児教育の充実を進めるなかで、保育技術・知識の向上を図る上で有効である。また、運動会等の記念品贈呈は園児たちの参加意欲を高める上で効果的である。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必 要 性	B	B
	有 効 性	B	
	効率・経済性	B	
	24年度決算 (千円)	691	
	25年度決算 (千円)	794	

## ・活 動 指 標

事業名	活動名	指 標	H23年度 実績	H24年度 実績	H25年度 実績	H26年度 予定	将来目標 (平成 32年度)	備 考
幼稚園運営事業	幼稚園教材費整備事業	決算 (予算)額 (千円)	3,297	3,778	3,477	3,600	—	一般備品及び図書備品購入費
	※「決算(予算)額(千円)」は、幼稚園運営事務にかかる事業費のうち幼稚園教材備品整備事業の事業費を表示しています							
幼稚園教育振興事業	研 修 会 事 業	※研修会参加 負担金(千円)	139	90	90	90	—	
	※研修会参加負担金「決算(予算)額(千円)」は、幼稚園教育振興事業にかかる事業費のうち研修会参加事業の事業費を表示しています。							



【幼稚園運動会の様子】

### 《課題》

教員の研修を通じて、よりいっそう指導力の向上を努める事により、時代の変化に対応した幼稚園運営につながるかが課題である。

### 《今後の取組み》

幼稚園教育の充実を目指し、より質の高い技術・知識の向上を図れるよう助成したい。

# 幼稚園教育環境の整備

総務課

総合計画の位置付け	政策名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名：就学前教育の充実 主な取組み事項：幼稚園教育環境の整備
目的	幼稚園は、園児にとって学習及び生活の場であり、安全確保のための耐震補強工事を優先しながら、豊かな人間性を育む快適な環境を維持するための整備・改修を計画的に進める。

主な取組み事項の経緯 香芝市学校施設等耐震化推進計画に基づき、順次耐震補強工事を進めている。また、緊急性、重要性等を踏まえ、計画的に改修、修繕等を実施し、施設の維持管理に努めている。
--

## ・主な事業

<b>1. 幼稚園施設耐震化事業</b>			
〈目的〉 園舎の耐震化により、園児の安全を守り良好な教育環境を確保する。 〈取組みの状況〉 園舎の耐震化については、平成 21 年度に全ての耐震二次診断を完了後、香芝市学校施設等耐震化推進計画に基づいて、順次進めている。平成 25 年度は五位堂・関屋幼稚園の耐震補強工事を実施した。 〈成果〉 2 幼稚園の耐震補強工事を実施したことにより耐震化率が、92.9%となると共に、トイレ等の施設環境が向上した。 〈評価〉 平成 25 年度は、補助金の優遇制度を利用し耐震事業を進めてきた。今後も積極的に補助金等を活用し平成 27 年度には耐震化率 100%を目指す。	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必要性	A	A
	有効性	A	
	効率・経済性	A	
	24 年度決算(千円)	237,283	
25 年度決算(千円)	164,979		
<b>2. 幼稚園施設維持管理事業</b>			
〈目的〉 就園する園児に、健康で安全に過ごせる快適な施設環境を提供する。 〈取組みの状況〉 園舎、園舎に付随する設備、園庭、遊具等の保守、点検、営繕工事等を実施している。 〈成果〉 平成 25 年度の計画に対し、園児の教育環境維持のため必要な修理や施設の改修工事等を実施することができた。 〈評価〉 厳しい財政状況の中、幼稚園からの要望に対しても、緊急性、重要性等を考慮し、計画的に事業を進めることにより、安全で安心できる施設環境を提供できた。	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必要性	A	A
	有効性	B	
	効率・経済性	A	
	24 年度決算(千円)	1,923	
25 年度決算(千円)	1,700		

・活動指標

事業名	活動名	指標	H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	H26年度予定	将来目標 (平成32年度)	備考
幼稚園施設の耐震化事業	幼稚園施設の耐震化事業	耐震化率(%)	57.1	78.6	92.9	92.9	100	平成27年度完了予定
		耐震化実施施設数(棟)	1	3	2	0	—	
幼稚園施設維持管理事業	幼稚園施設維持管理事業	幼稚園施設延床面積(m <sup>2</sup> )	7,793	7,793	7,793	7,793	—	
		維持管理工事費(千円)	12,805	1,923	1,700	1,000	—	H23年度二上幼稚園の仮設園舎改修費を含む



【耐震補強工事が完了した五位堂幼稚園】

《課題》

幼稚園の耐震化工事は大規模な工事になる場合が多く、工期も長期にわたることから、仮設園舎を建設することにより事業費も高額となる。

《今後の取組み》

園舎で耐震性が不足する残り1棟については、平成27年度に工事を実施し、同年度で耐震化率100%を達成する。

# 児童生徒の学力・体力の向上

## 学校教育課

総合計画の 位置付け	政 策 名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施 策 名：学校教育の充実 主な取組み事項：児童生徒の学力・体力の向上
目 的	学齢期の児童生徒は次代を担う世代であり、その育ちのいかんは未来の香芝市の在り方にも大きくかかわっている。したがって、香芝市の次世代の育ちを大切にしていくためには、児童生徒の様々な力を伸ばしていく必要がある。

主な取組み事項の経緯	
児童生徒へ学力・体力をつけるための学校教育活動の充実支援のために、読書活動の充実、外国語活動の推進、体力づくりの奨励、見聞を広めるための校外学習の実施及び学校教育活動への指導、助言等を進めてきた。	

### ・主 な 事 業

<b>1. 国際理解教育推進事業</b>			
<p>〈目的〉 楽しい外国語活動を盛り込みながら、日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深める。また、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。</p> <p>〈取組みの状況〉 英語を母国語とする外国語指導助手（ALT）をすべての市立小学校に派遣し、音楽やゲームなど身体活動などを取り入れながら、英語に親しむ機会となる外国語活動の学習を行った。また、ALT を講師に招き小学校教員対象の英語研修を行った。</p> <p>〈成果〉 外国人が話す英語に、小学校1年生から6年生までのすべての学年で接することにより、外国語（英語）や外国の文化について理解することができた。また、コミュニケーション能力の素地を養うことにもつながっている。</p> <p>〈評価〉 小学校の低・中学年では異なる文化に触れることを、高学年では英語に慣れ親しみ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を習得する取組みであり、子どもが主体的に学ぼうとする、学習全体の意欲向上につながっている。</p>	行政関与の妥当性	B	総合評価
	必要性	A	
	有効性	B	B
	効率・経済性	B	
	24年度決算 (千円)		5,880
	25年度決算 (千円)		5,967

2. 体力向上推進事業			
<p>〈目的〉 児童生徒の体力を向上させる取組みを進め、豊かな人間性の育成につなげる。</p> <p>〈取組みの状況〉 体力づくり推進に関する市の研究指定校は、平成25年度は、小学校2校、中学校1校であり、「進んで運動に取り組み、体力向上を図ろうとする子どもの育成」などの研究が行われ、校内のみならず他の学校の体力向上にもつながった。</p> <p>〈成果〉 研究指定校では、継続の学校もあるが1年間、市の研究指定を受け、全教職員が協力して研究を行った。子どもの体力向上はもちろん、運動に対する意識の向上や運動を通じた心の成長を図ることができた。</p> <p>〈評価〉 以前より、市内各小学校では、一校一運動による学校づくり、体力づくりを行っているおり、指定研究校の研究成果と併せて、子どもたちの体力の向上が図られている。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必要性	B	B
	有効性	B	
	効率・経済性	A	
	24年度決算(千円)		
25年度決算(千円)			47

### ・活動指標

事業名	活動名	指標	H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	H26年度予定	将来目標(平成32年度)	備考
国際理解教育推進事業	国際理解教育推進事業(小学校費のみ)	授業時数	2,350	1,904	1,904	1,864	—	
		決算(予算)額(千円)	7,359	5,880	5,967	5,638	—	
体力向上推進事業	推進指定校体力づくり	実施校数	4	1	3	3	—	応募による
		決算(予算)額(千円)	110	20	47	90	—	

### 《課題》

文部科学省では、小学校での英語教育の開始時期の引き下げや正式な教科にすることが検討されている。本市では小学校1年生から取り組み、子どもたちの英語に対する興味関心は高まっているが、今後、小学校教員に対して、英語教育を行うための能力・技能の向上が求められる。

また、体力向上に関しては、より多くの学校が、指定研究を受けることにより、学校として組織的、専門的な体力向上の推進を行っていくことが重要である。

### 《今後の取組み》

各学校では、ALTによる英語授業の参観や夏期休業期間における研修などを通して、授業等に対する教員のスキルアップを図る。また、体力づくりについては、幼稚園から小学校、また中学校へと、それぞれの校種間で連携を取り、行事への参加や部活動などでの交流を図っていきたい。

# 児童生徒の学力・体力の向上

総務課

総合計画の位置付け	政 策 名： 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施 策 名： 学校教育の充実 主な取組み事項： 児童生徒の学力・体力の向上
目 的	学齢期の児童生徒は次代を担う世代であり、その育ちのいかんは未来の香芝市の在り方にも大きくかかわっている。香芝市の次世代の育ちを大切にしていくなめには、児童生徒の様々な力を伸ばしていく必要がある。

主な取組み事項の経緯
児童生徒の学力・体力の向上を図るための取組みとして、教材の充実、体力づくりの奨励、校外学習など学校教育活動に対して物的支援を行った。

## ・主 な 事 業

1. 小・中学校運営事業			
〈目的〉 学力・体力の向上に向けた学校運営を図るための支援を行ない、特色ある学校づくりを進める。 〈取組みの状況〉 特色ある学校づくりを進める中で、教職員の研修会参加費用、校外学習活動及び文化的行事にかかる費用の助成を行い、また、クラブ備品、教材備品等の予算措置をした。 〈成果〉 学校教育活動に費用を助成することにより、児童生徒がよりいっそう学力・体力を向上させようとする意欲が養われた。 〈評価〉 各学校運営を図るための費用の支援を行った結果、特色ある学校づくりが進んだ。	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必 要 性	A	B
	有 効 性	B	
	効率・経済性	B	
	24年度決算 (千円)	367,444	
25年度決算 (千円)	371,985		
2. 小・中学校教育振興事業			
〈目的〉 体育及び文化活動の充実を図り、児童生徒の体力向上に向け、意欲的に運動に取組み「豊かな人間性」を向上させる。 〈取組みの状況〉 運動会・卒業式等の各種行事に対する記念品の贈呈。生徒が学校教育活動として、各種競技大会の参加に向けた交通費、宿泊費の助成を行った。 〈成果〉 各大会競技及び発表会において活躍し、充実感や満足感を体験し、進んで運動に取組み、心身の成長につながった。 〈評価〉 教育振興を図るため、学力・体力の向上に向けた取組み、活躍の場を提供し、各種の援助についてより効果が得られた。	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必 要 性	B	B
	有 効 性	B	
	効率・経済性	B	
	24年度決算 (千円)	10,457	
25年度決算 (千円)	9,399		

## ・活動指標

事業名	活動名	指標	H23年度 実績	H24年度 実績	H25年度 実績	H26年度 予定	将来 目標 (平成32年度)	備考
運営事業 小中学校	学校教材 備品等整備 事業	決算 (予算)額 (千円)	36,266	23,655	20,603	22,150	—	
小・中学校教育 振興事業	体育・ 文化活動 補助金	対象 事業数	100	108	136	150	—	社会見学や体育の記 録会、クラブ活動にか かる交通費の助成
		決算 (予算)額 (千円)	4,578	4,764	4,871	5,225	—	
	各種競技 大会参加 補助金	参加件数	28	44	41	—	—	全国大会、近畿大会に出 場するための経費(主に 交通費)について助成
		決算 (予算)額 (千円)	1,377	2,915	2,412	1,500	—	



【中学校部活動の様子】

### 《課題》

教材備品は、学校の要望を基にして教材の機能の充実を図る必要がある。また、各種の補助事業については、事業内容を精査して進める必要がある。

### 《今後の取組み》

児童生徒が心身とも健全に成長し豊富な知識と経験を得るため、様々な活躍の場への援助や、豊かな教育、特色ある教育を受けるために、各学校の要望に対応した効果的な教育環境の整備に努めることによって学習意欲の向上を図りたい。

# 安心して学べる教育環境の整備

## 学校教育課

総合計画の位置付け	政 策 名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施 策 名：学校教育の充実 主な取組み事項：安心して学べる教育環境の整備
目 的	地域・家庭・学校・行政が連携し、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた児童生徒の育成ができる教育環境の整備を目指す。

主な取組み事項の経緯
家庭や地域における教育力の低下により、学校教育に求められる内容が多様化している。心身ともに健康な児童生徒の育成のための様々な取組みが必要となっており、ニーズにそった人的資源の整備が不可欠な状況である。

### ・主 な 事 業

<b>1. 児童生徒包括的支援事業</b>			
〈目的〉 問題を抱える児童生徒に対して、様々なアプローチから問題解決に取り組み、充実した学校生活を過ごせるように人的環境を整備する。 〈取組みの状況〉 スクールカウンセラーを市内の4つの中学校に配置し、中学校区内の小・中学校の児童生徒や保護者、また教員に対してカウンセリングを行っている。また、新たに生徒指導支援室を設置したことを広報し、教育に関する諸問題についての教育相談を行うとともに、スクールソーシャルワーカーによる不登校電話相談を毎月2回開いている。 〈成果〉 いじめや不登校、また虐待などの問題が発生した時に、専門性を活かして技術的な支援を行い、また関係機関との連携が図れた。 〈評価〉 不安や心配事を抱える児童生徒や保護者に対しては、専門的な助言により、安心感を与え、充実・改善した学校生活や家庭生活につながることができるので、重要な事業であると考えている。	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必要性	A	B
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	24年度決算(千円)		
25年度決算(千円)			1,197
<b>2. 特別支援教育推進事業</b>			
〈目的〉 特別な支援を必要とする子どもの適正な就学を図るとともに、社会自立のできる児童生徒の育成を目的とする。 〈取組みの状況〉 就学相談をはじめ、通級指導教室の運営、支援員・介助員の派遣等を行った。また、特別支援教育の充実を図るため、様々な研修会や講演会を開催した。 〈成果〉 進学・進級を迎える児童生徒102人に対し、就学相談を行った。全ての小・中学校の特別支援学級に、支援員や介助員を配置することにより、より安全で充実した教育活動を行うことができた。 〈評価〉 教育的な支援が必要な児童生徒は増加傾向にあり、対象の児童生徒に対する支援体制は、更に必要と思われる。	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必要性	A	B
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	24年度決算(千円)		
25年度決算(千円)			8,464

3. 学校給食事業				
<p>〈目的〉 児童・生徒の心身の健全な発達のために、学校給食の栄養管理・衛生管理・給食指導への支援等適正な学校給食事業の運営を行う。</p> <p>〈取組みの状況〉 献立作成・給食物資納入等業務及びアレルギー対策を進めるとともに学校給食の充実を図った。また、香芝市立中学校給食実施計画策定会議を発足し実施計画書の策定を行った。</p> <p>〈成果〉 アレルギー講習及びエピペン使用の実技講習を実施した。年間186回、7,000食余りの給食業務を安全に行った。また、中学校ではミルク給食と選択制弁当給食を実施した。</p> <p>〈評価〉 アレルギー対応を実施する場合は、医師の診断書の提出を義務付け、診断書の様式も奈良県教育委員会作成「学校生活管理指導表」に統一し、食物アレルギー情報のレベルを統一し、より確実にアレルギー対応が出来るようになった。中学校の弁当給食については、平成24年度の喫食数は2.9%であるが平成25年度の喫食数は2.7%と下がっている。平成22年度に一新したメニューが固定化されて新鮮味が薄れて来たため改善が必要である。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価  A	
	必要性	A		
	有効性	B		
	効率・経済性	A		
	24年度決算(千円)			487,287
	25年度決算(千円)			474,351

### ・活動指標

事業名	活動名	指標	H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	H26年度予定	将来目標(平成32年度)	備考
児童生徒包括的支援事業	スクールカウンセラー配置	配置校数	4	4	4	4	4	拠点校として市内4中学校に配置
		決算(予算)額(千円)	1,143	1,128	1,133	1,150	—	
育推進事業	特別支援教育支援員配置	配置校	11	13	14	14	14	
		決算(予算)額(千円)	4,995	4,677	8,434	9,070	—	
学校給食事業	学校給食の提供(賄材料費)	実施回数	185	185	186	185	185	
		決算(予算)額(千円)	316,594	314,000	312,697	313,124	—	

### 《課題》

いじめや不登校などの悩みを持つ児童生徒や保護者からの相談については、各学校や教育委員会において、より相談しやすく、また子どもの実態に即した対応を図らなければならない。

また、身体障害や発達障害など、特別な支援を必要としている児童生徒の数は、年々増え続けており、特別支援学級の担当教師だけでなく、全教職員が共通理解のもと、適切な対応が必要である。

学校給食における食物アレルギー対応の必要性も年々増加の傾向にあり、平成25年度より診断書の提出を義務づけた。しかし、医療機関によっては給食での対応方法について概要しか記載されていない等、学校幼稚園現場が診断書から給食における対応方法を判断することが難しい場合もある。そのため、来年度以降は医療機関へ診断書の記載を依頼する際に、記入方法の凡例等を添える等の改善が必要である。

### 《今後の取組み》

各学校の教育相談体制や教育委員会との連携を図るため、定期的に各学校の教育相談担当者を集め、研修を行い教育相談及びカウンセリングの充実を図る。更に、特別支援教育に関しては、学校教育の柱の一つとして位置づけ、教員の研修も含め、学校全体で取り組んでいく。

安心・安全な学校給食の提供を基本とし、必要なエネルギーや栄養を補い、これまで以上に学校と連携し給食を通じた食育を進めていく。

# 安心して学べる教育環境の整備

総務課

総合計画の 位置付け	政 策 名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施 策 名：学校教育の充実 主な取組み事項：安心して学べる教育環境の整備
目 的	地域・家庭・学校・行政が連携し、確かな学力・豊かな心、健やかな体の調和の取れた児童生徒の育成を目指す。 施設面では、学校施設の耐震化を最優先事業と位置付け、安全・安心・快適な学校づくりを推進する。

主な取組み事項の経緯
施設面では、厳しい財政状況の中、緊急性、重要性等を考慮し、計画的に施設の維持管理に努めている。

## ・主 な 事 業

<b>1. 教育施設耐震化事業</b>			
<p>〈目的〉 学校施設の耐震化により、児童・生徒の安全を守り良好な学習環境を確保するとともに、災害発生時には避難場所としても活用されることから地域住民の安全・安心の確保を図る。</p> <p>〈取組みの状況〉 香芝市学校施設等耐震化推進計画に基づき、耐震補強工事を順次進めていく。</p> <p>〈成果〉 計画のとおり Is 値の低い校舎 2 棟及び体育館 1 棟の耐震補強工事を実施し、完了した。</p> <p>〈評価〉 国の補助金等を活用するなど早期に目的達成をするため、今後も最優先して取り組むべき事業である。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価  A
	必 要 性	A	
	有 効 性	A	
	効率・経済性	A	
	24 年度決算(千円)	83, 147	
25 年度決算(千円)	93, 951		
<b>2. 小・中学校施設維持管理事業</b>			
<p>〈目的〉 児童・生徒に、健康で安全に過ごせる良好な学習環境を提供する。</p> <p>〈取組の状況〉 校舎や校舎等に付随する設備、運動場、体育施設等の保守、点検、営繕工事等を実施する。</p> <p>〈成果〉 学校の良好な教育環境を維持するため必要な機器の修理や、施設の改修・修繕を実施した。</p> <p>〈評価〉 児童・生徒に良好な学習環境を提供するには必要不可欠な事業であり、計画的に進めることにより、学校施設等の長寿命化にも有効な事業である。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価  B
	必 要 性	A	
	有 効 性	B	
	効率・経済性	B	
	24 年度決算(千円)	194, 947	
25 年度決算(千円)	167, 149		

・活 動 指 標

事業名	活動名	指 標	H23 年度 実績	H24 年度 実績	H25 年度 実績	H26 年度 予定	将来目標 (平成 32 年度)	備 考
教育施設 耐震化事業	小学校施設 耐震化事業	耐震化率(%)	79.2	83.3	89.6	95.8	100	平成 27 年度完了予定
		耐震化実施 施設数(棟)	0	2	3	3	—	
	中学校施設 耐震化事業	耐震化率(%)	79.2	79.2	79.2	87.5	100	平成 27 年度完了予定
		耐震化実施 施設数(棟)	1	0	0	2	—	
小・中 学校施設 維持管理 事業	小学校施設 維持管理 事業	小学校施設 延床面積(m <sup>2</sup> )	55,607	56,294	56,294	56,294	—	
		維持管理 工事費(千円)	10,922	187,692	162,150	135,200	—	
	中学校施設 維持管理 事業	中学校施設 延床面積(m <sup>2</sup> )	36,873	36,873	36,873	36,873	—	
		維持管理 工事費(千円)	124,644	7,255	4,999	3,500	—	



【耐震工事が完了した五位堂小学校】

《課題》

現在、施設の耐震化の推進には予算の確保が重要であり、市の財政状況や国の交付金状況を考慮しながら事業を進めていく必要がある。

《今後の取組み》

厳しい財政状況の中、最小のコストで最大の効果が得られるよう、引き続き耐震化や大規模改修に向けた年次計画を策定し、施設管理を実施する。

※Is 値 0.6 以上ある建物は、震度 6 強程度の大地震に対しても建物の倒壊や崩壊する危険性が低いと考えられているが、文部科学省では、学校は Is 値 0.7 以上に補強することとしている。

# 信頼される学校づくり

## 学校教育課

総合計画の 位置付け	政 策 名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施 策 名：学校教育の充実 主な取組み事項：信頼される学校づくり
目 的	学校教育の実践にあたっては、現状の教員の資質向上により、市民の負託に応える教育の質の向上を図る。また、教育に寄せる市民の期待は非常に大きく、学校評議員制度等を通じて、学校運営に関し意見を聞き、理解と協力を得ながら特色ある教育活動を展開していく。

主な取組み事項の経緯
教職員の資質向上を図るため、研修の場をそれぞれの園・学校や市教育委員会で計画を実施している。また、学校評議員制度は平成 16 年に市内全ての小・中学校で実施し、毎年、学校運営に関し意見を聞き、学校が家庭及び地域と連携協力しながら、地域や社会に開かれた学校づくりをより一層推進し、学校運営を進めている。

### ・主 な 事 業

<b>1. 教職員資質向上事業</b>			
<p>〈目的〉 様々な研究・実践活動への取組みや研修会への参加を通じて、教職員の資質の向上を図る。</p> <p>〈取組みの状況〉 園・学校において、授業研究や実践発表を行うとともに、教育委員会主催の教員研修や教育講演会などを実施し、いじめ防止対策など喫緊の課題に関する研修を行った。また、平成 25 年度は、市内の幼稚園、小・中学校から計 9 つの校（園）と研究グループに対し、研究校に指定した。</p> <p>〈成果〉 様々な研修や講演会を持ち、教員の資質や技能の向上に努め、より良い授業づくりや授業内容の充実につなげることができた。また、研究テーマを独自に設定し、研究・実践発表を行うことによって、市全体の教育の向上に広げることができた。</p> <p>〈評価〉 授業公開や指導主事を招聘するなど様々な研修を行うことにより、教職員の自己研鑽に大きく役立っている。また、指定研究の事業は、教育現場の課題解決の一助となっており、今後においても必要不可欠である。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価  B
	必要性	A	
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	24 年度決算(千円)		266
	25 年度決算(千円)		779

2. 開かれた学校づくり推進事業			
<p>〈目的〉 学校が地域や家庭との連携の強化を図り、それぞれが一体となって子どもの健やかな成長を図ることを目的とする。</p> <p>〈取組みの状況〉 全ての小・中学校において、地域住民や保護者の中から、教育に関する見識を有する 5 名の学校評議員を置き、定期的に学校評議員による会議を開催して、学校長は学校運営への意見を求めた。</p> <p>〈成果〉 教職員だけでなく、地域や保護者の方々が、学校における教育課題を共有するとともに、学校運営への意見聴取を行い、学校運営に活かすことができた。</p> <p>〈評価〉 地域と共にある学校づくりを目指し、地域に向けての情報発信を行い、地域・保護者とともに子どもたちの教育を進めている。本事業により、地域・家庭との連携が強まってきており、目的を達成するためには有効と考えられる。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必要性	A	B
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	24年度決算(千円)	582	
	25年度決算(千円)	567	

### ・活動指標

事業名	活動名	指標	H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	H26年度予定	将来目標 (平成32年度)	備考
教職員資質向上事業	教育研究費助成	研究・実践発表園校及び団体数	9	8	9	9	—	園・学校からの応募による
		決算(予算)額(千円)	250	150	221	300	—	
開かれた学校づくり推進事業	学校評議員会	開催回数	42	42	42	42	42	各学校で年3回
		決算(予算)額(千円)	588	582	567	630	—	

### 《課題》

学校は、積極的に地域や家庭へ情報を積極的に発信していく必要がある。学校評議員を置くことにより、開かれた学校へと改善されつつあるが、それぞれの学校が抱える教育課題について、引き続き、地域や家庭と連携をとり、課題解決に努めていく必要がある。

### 《今後の取組み》

研修会や講演会では、いじめや体罰問題、道徳教育の充実といった喫緊の教育テーマを掲げ、研修を行い、教職員の資質向上を図る。

また、学校と地域・家庭との連携を図るためにも、地域や家庭に対し、学校のホームページや紙面など様々な方法を活用し、学校より情報を発信し、地域と共にある開かれた学校づくりに努める。

# 子どもの居場所づくり

## 生涯学習課

総合計画の 位置付け	政策名 : 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名 : 子ども・若者のフォローアップ(青少年の健全育成) 主な取組み事項 : 子どもの居場所づくり
目的	地域・家庭・学校・行政等の連携のもと、自然や人々とのふれあい、社会参加活動を推進し、青少年の情操教育を行い、次代を担う青少年の健全な育成を図る。

主な取組み事項の経緯
近年、核家族化や都市化が進行し、コミュニケーション不足から、家庭や地域社会における教育機能の低下が懸念される中、イベントやふれあいの場を設定することにより、青少年の健全な育成を図ると共に地域や家庭・学校等の中での絆づくりを図ってきた。

### ・主 な 事 業

<b>1. 子どもフェスティバル事業</b>				
<b>〈目的〉</b> 子どもたちが休日に保護者や友だち、地域の人たちとふれあい、豊かな心を育てるためのコミュニケーションの場を提供することを目的とする。 <b>〈取組みの状況〉</b> 子どもフェスティバルに参加する子どもたちや親子が物づくりの体験・体感をとおして、地域の人たちとふれあい、健康な心を育むことを目指し関係諸団体と協力して取り組んでいる。 <b>〈成果〉</b> 子どもたちや親子が休日の一(1,526人参加)を有意義に過ごし、ふれあいやコミュニケーションを取り、豊かな心を育むことができた。 <b>〈評価〉</b> 市民参画の一環として、子どもたちが参加することで、コミュニケーション作りや豊かな心を育むことができていると考える。	行政関与の妥当性	A	総合評価  B	
	必要性	B		
	有効性	A	24年度決算(千円)	
	効率・経済性	B		31
			25年度決算(千円)	37
<b>2. 青少年野外活動センター管理運営事業</b>				
<b>〈目的〉</b> 自然とふれあい仲間づくりを大切に、豊かな心でたくましく青少年を育成することを目的とする。 <b>〈取組みの状況〉</b> 青少年団体や家庭・地域がふれあいと交流を深める場としての青少年野外活動センターは、施設の老朽化や施設付近の人口も増加する中で、とりわけ付近住民に対して迷惑が生じないような行動をとる旨の注意喚起を行いながら、利用促進を図った。 <b>〈成果〉</b> 平成25年度は、社会教育団体の利用者が減少したが、2,940人の利用があり、仲間づくりを大切に、豊かな心を養う青少年の健全育成を図ることができた。 <b>〈評価〉</b> 野外活動で自然を体験することにより社会生活を学び、青少年の健全育成に有効であると考え。	行政関与の妥当性	B	総合評価  B	
	必要性	B		
	有効性	C	24年度決算(千円)	
	効率・経済性	B		1,934
			25年度決算(千円)	1,987

### 3. 成人式事業

<p>《目的》 成人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を社会の一員として受け入れ、多くの仲間たちと連携して、社会の一員として前途を励ますことを目的とする。</p> <p>《取組の状況》 式典の運営・企画等は新成人による実行委員会形式で、行政と連携して実施している。</p> <p>《成果》 新成人が実行委員として、企画・運営に携わり、式典の当日は、司会進行や招待者接待等の役割を務め、高評を得る。新成人の参加率は約80%であった。</p> <p>《評価》 新成人自らが成人式を企画・運営をし、心に残る式典運営が行うことができていると考えられる。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価  B
	必要性	A	
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	24年度決算(千円)	1,379	
25年度決算(千円)	1,297		

#### ・活動指標

事業名	活動名	指標	H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	H26年度予定	将来目標(平成32年度)	備考
子どもフェスティバル事業	子どもフェスティバル	参加人数	2,274	2,800	1,526	2,000	2,500	当日の雨による減少
		決算(予算)額(千円)	39	31	37	30	—	
青少年野外活動センター事業	青少年野外活動センター管理運営業務	利用者数	4,745	4,013	2,940	4,000	5,000	平成26年度より「青少年団体育成事業」に名称変更
		決算(予算)額(千円)	1,972	1,934	1,987	2,122	—	
成人式事業	成人式運営	式典参加者数	580	638	635	700	700	
		決算(予算)額(千円)	1,332	1,379	1,297	1,653	—	対象人数の増加



【子どもフェスティバル】



【青少年野外活動センター】



【成人式】

#### 《課題》

子どもフェスティバル事業は、実行委員会形式で実施しているが、参加団体に依存度が大きく、連携・協力が欠かせない事業である。青少年野外活動センターは、周辺の環境が設置当初より大きく様変わりし、本来の野外活動が利用しやすいように点検や施設の改善を行い、現状の施設を踏まえた中で、利用者に対する理解を頂きながら、青少年野外活動センターの運営をして行くことが必要である。

#### 《今後の取組み》

子どもフェスティバルは、ふれあいフェスタと共同開催ということもあり、今後においてもふれあいフェスタと連携しながら、企画・運営を行い、充実した子どもフェスティバルの開催に取り組んでいきたい。

# 広報啓発の強化

## 青少年センター

総合計画の位置付け	政 策 名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施 策 名：子ども・若者のフォローアップ(青少年の健全育成) 主な取組み事項：広報啓発の強化
目 的	青少年の健全育成に対する市民の意識高揚と家庭の教育力向上を図るため、広報啓発活動を行う。

主な取組み事項の経緯
青少年健全育成推進大会や市民集会などの大会を通じて、全ての市民が健全育成と非行防止への関心を高める事が出来るように事業実施をし、多くの参加を得ている。また、街頭指導等については、非行の早期発見や犯罪被害を未然に防止するため、駅前啓発や市内の祭礼時等の防犯パトロールを強化している。今後も広報紙への掲載や青少年の模範となるような行動の実践を呼びかける。

### ・主 な 事 業

1. 「少年の主張」事業			
〈目的〉 心身共に発達期にある児童生徒が、家庭や学校、友人・地域社会との関わりの中で日頃考えていること、抱えている想いを広く市民に訴えることで、市立の小・中学生が家庭や学校、友人、地域社会について日頃考えていることや、抱えている想いを多くの市民に伝えることを目的とする。 〈取組みの状況〉 市民集会に向けて市内各小・中学生より作文を募集し、各学校より選考された作文をさらに作文審査会で選考された優秀な作文を発表した。また、関係機関、団体が連携することで地域の教育力向上を図り青少年の健全育成の推進に努めた。 〈成果〉 発表をとおして多くの市民に、本市の子どもたちの思いを聞いてもらい子どもの考えに関心を深めてもらえた。 〈評価〉 200名の参加があり大変好評であった。多くの市民に、今の小・中学生の抱えている思いを市民集会での作文発表という形で提供できたことは有意義であった。今後は、青少年の健全育成に向け、家庭・学校・地域社会また、関係機関・団体がより緊密に連携を図ることが重要な事業である。	行政関与の妥当性	A	総合評価  A
	必要性	A	
	有効性	B	
	効率・経済性	A	
	24年度決算(千円)		
25年度決算(千円)			175
2. 広報啓発活動事業			
〈目的〉 本市の将来を担う青少年の健全育成を推進するため、市民が規範意識の向上と望ましい行動様式を確立し、模範を示すという見地から関係機関・団体と連携し本活動に取り組む。このことにより、市民に青少年の健全育成に対する理解と認識を浸透させ人としての温かさや思いやりのある豊かな人間形成を目指す。 〈取組みの状況〉 青少年健全育成推進大会、香芝市内4中学校区青少年補導員合同研修などを開催し、市民に青少年健全育成についてともに考える機会を設けた。少年補導員や青少年指導員とともに近鉄五位堂駅・二上駅で年2回の啓発活動を行った。また、のぼり旗、広報車などの各種広報媒体を活用して広報と啓発を行った。	行政関与の妥当性	A	総合評価  A
	必要性	A	
	有効性	A	
	効率・経済性	B	

<p>《成果》 香芝市においては今のところ、大きな事件や事案は発生していないように思われる。これは、青少年健全育成協議会及び指導員協議会による活動が一役を担っているように思われる。</p> <p>《評価》 本活動は、良い結果を出しているが青少年の問題行動や非行は、情報社会の変化がめまぐるしく変わってきているのが現実である。非行・被害の更なる抑止のために引き続き、警察等、各種関係機関・団体と連携して推進していくことが必要である。</p>	24年度決算(千円)	1,008
	25年度決算(千円)	767

・活動指標

事業名	活動名	指標	H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	H26年度予定	将来目標(平成32年度)	備考
少年の主張	市民集会	参加者数	267	200	200	240	240	
活動広報啓発	健全育成推進大会	参加者数	240	120	150	150	240	



【香芝市青少年健全育成推進大会】



【近鉄五位堂駅前広場での駅頭啓発】

《課題》

青少年を非行や被害から守り、心身ともにたくましく成長出来るように取り組む必要がある。また、多くの市民の皆さんに青少年の現状について理解いただくと共に、さらに今後、より一層の協力を得て健全育成に導くには、青少年が何を考えているか、何を求めているかを考えていく必要があるように思われる。

《今後の取組み》

心身ともにたくましく、自立した青少年を育てるには地道な取組が必要である。市民集会においては「少年の主張」における内容の向上を図るため各学校に対し、その主旨の理解に努める。

また、市内各主要箇所の美化清掃など大人が青少年の模範となる活動を実施するとともに、より広範な機関・団体などへの啓発を進める。

# 子ども見守り活動の推進

## 青少年センター

総合計画の 位置付け	<p>政 策 名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち</p> <p>施 策 名：子ども・若者のフォローアップ(青少年の健全育成)</p> <p>主な取組み事項：子ども見守り活動の推進</p>
目 的	<p>青少年による非行の早期発見や犯罪の被害から守るため、店舗への立入りや巡視活動を推進する。また、良好なまちの景観形成を図るとともに、違反広告物の除却作業により環境美化を推進する。</p>

<p>主な取組み事項の経緯</p>	
<p>最近の青少年の非行・犯罪は、学校下校中の殺人に繋がる傾向が報道を賑わしているように思われる。近年情報化社会等の進行により青少年の健全な育成を阻害する恐れのある有害な情報等が氾濫し、それに加えて大人社会のモラルの低下が青少年の意識や行動に大きな影響を及ぼしているように思われる。このような状況の下、本市では警察・学校・地域・補導活動専門委員等と密接な連携をとりながら、市内巡視及び夜間祭礼巡視や店舗等への合同立入調査を行っている。</p> <p>また、子ども見守り活動でも地域・学校関係と連携をとりながら、下校巡視活動や防犯パトロールでの巡視をおこなっている。</p>	

### ・主 な 事 業

<p>1. 市内特別巡視事業</p>			
<p>〈目的〉 青少年センターと警察・少年補導員、関係機関・団体とが協力して実施する防犯活動により、市内のすべての子どもたちの安全・安心につながる環境を提供し、青少年の健全育成を図る。</p> <p>〈取組みの状況〉 警察や少年補導員など関係機関・団体と連携し、補導活動や夏期・冬期夜間特別巡視、祭礼巡視などに加え、7月の「青少年の非行被害防止強調月間」には、警察や少年補導員・各種団体との協力により駅頭啓発を実施した。また、児童生徒の下校時に合わせ、見守り活動や定期パトロールを行った。</p> <p>〈成果〉 各校区において警察や少年補導員など関係機関・団体による下校指導や見守り活動などの協力により、子どもが事件に巻き込まれるような事案は出てきていない。</p> <p>〈評価〉 各種関係機関・団体等の協力による見守り活動などの結果、大きな事案も発生しておらず、当初の目的が達成していると思われるため継続して活動していくことが必要である。</p>	行政関与の妥当性	A	<p>総合評価</p> <p>B</p>
	必要性	A	
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	24年度決算(千円)	256	
25年度決算(千円)	84		

## ・活動指標

事業名	活動名	指標	H23年度 実績	H24年度 実績	H25年度 実績	H26年度 予定	将来目標 (平成32年度)	備考
巡視事業 市内特別	市内・夜間 特別巡視	件数	310	150	270	300	300	



【祭礼巡視】



【合同立入調査】

### 《課題》

子ども見守り活動を推進するには、警察や少年補導員など関係機関・団体との連携を密にし、市内の子どもの活動範囲を十分に把握し、非行・被害に遭遇しないように、また犯罪に巻き込まれないよう未然に十分な協議が必要である。

### 《今後の取組み》

青少年の犯罪被害は、近年のスマートフォンやインターネットおよびラインによる犯罪が増加している。利用者の低年齢化に伴い、犯罪被害も年々低年齢化の傾向が見られる。

スマートフォンやインターネットに関しては、フィルタリングの徹底などチラシ等で再度周知していきたい。今後、青少年センターにおいても各健全育成事業の中で啓発を実施していきたい。

# 体験学習の機会の提供

## 青少年センター

総合計画の位置付け	政 策 名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施 策 名：子ども・若者のフォローアップ（青少年の健全育成） 主な取組み事項：体験学習の機会の提供
目 的	体験活動や野外活動をとおして、親子・なかまのふれあいを図りながら、自主性や社会性、協調性を身につけ、子どもが自ら取り組み、さらには問題解決にむけた意欲や能力を培う。

主な取組み事項の経緯
広報紙や学校へのチラシ配布で一般公募した小・中学生、(保護者)を青少年指導員の指導の下、見学や体験場所へ引率指導する。

### ・主 な 事 業

1. 子ども体験事業			
〈目的〉 体験や見学を通して集団でのマナーやルール及び協調性を養い、社会性や人間性を育み、健全な青少年の育成を図る。 〈取組みの状況〉 広報誌や学校へのチラシ配布で公募した小・中学生を対象に、青少年指導員の指導の下、関西空港での体験、ふるさと元気村などでの工房体験を行った。 〈成果〉 さまざまな体験を経験し、他校の参加者とのふれあいなどを通して新しい仲間との交流ができた。 〈評価〉 募集人員を超える申し込みがあり、抽選による参加となり好評である。市内各校から集まることにより、新しい友達ができることや触れ合いを通して子どもの成長に大きな効果があったように思われる。	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必 要 性	A	A
	有 効 性	A	
	効率・経済性	B	
	24年度決算 (千円)	270	
	25年度決算 (千円)	341	

### ・活 動 指 標

事業名	活動名	指 標	H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	H26年度予定	将来目標 (平成32年度)	備 考
子ども体験事業	わくわくキッズ体験学習	参加者数	25	15	35	35	35	平成25年度より名称変更
	自然体験学習	参加者数	24	26	35	35	35	
	雪体験ファミリーツアー	参加者数	72	79	194 応募者数	80	80	平成25年度は、雪不足により中止



【わくわくキッズ体験学習 関西国際空港】



【自然体験ツアー ふるさと元気村】

### 《課題》

各体験学習の参加状況は、内容等により多少の増減は生じるものの希望者は増加してきている。また、子どもたちが興味をもって参加できる体験を発掘していきたい。指導員については、今年度も人数や経験の問題は課題として残る。

### 《今後の取組み》

各事業については、青少年指導員会議において決定はされるが、常に見直しを考え、小・中学生の興味のある体験等を計画したい。募集は現在行っている広報誌、学校へのチラシ配布に加え、市のホームページにおいても募集をしていきたい。指導員の確保については、幅広い年齢層の方を募集したい。

# 適応指導の充実

## 学校教育課

総合計画の位置付け	<p>政 策 名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち</p> <p>施 策 名：子ども・若者のフォローアップ（青少年の健全育成）</p> <p>主な取組み事項：適応指導の充実</p>
目 的	<p>児童・生徒の不登校等への対応については、その要因・背景が多様であることから、学校のみならず、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどとも連携をとり、早期の対応をはじめ、きめ細やかな支援を行う。不登校児童生徒に対する適切な支援として適応指導教室（すみれ教室）を設置し、集団生活への適応、基礎学力の補充などの適応指導を行い、学校への復帰を支援する。</p>

<p>主な取組み事項の経緯</p>
<p>不登校やいじめ問題など、保護者や学校からの教育上の悩みに対して相談活動を実施し、関係諸機関とも連携を図り、必要な助言・支援を行う。また、学校に登校できない児童生徒を対象に、適応指導教室では個々に応じた支援を行い、学校復帰を援助している。平成 25 年度より教育相談活動と適応指導教室の所管が、青少年センターから生徒指導支援室に移り、教育に関する相談機能が統合された。</p>

### ・主 な 事 業

1. 適応指導教室事業			
<p>〈目的〉 心理的または情緒的なことにより、学校に登校できない児童・生徒を対象に、一人一人に応じた、学校生活への復帰を目指し、支援する。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必 要 性	A	
<p>〈取組みの状況〉 個々に対して、集団生活への適応、情緒の安定や基本的生活習慣の改善などにための相談、また基礎学力の補充などの適応指導を行う。</p>	有 効 性	A	A
	効率・経済性	B	
<p>〈成果〉 適応指導教室での指導員や臨床心理士との相談・カウンセリングや運動や園芸などの活動を含む学習支援などを行うことにより、約 6 割の児童生徒が何らかの形で学校に復帰することができた。</p>	24 年度決算(千円)		44
<p>〈評価〉 不登校に至った理由は、それぞれ異なるが、適応指導教室に通うことにより、個々に応じた時間や空間の中で、通級生や指導員とのふれあいを通し、心を開き、安心して自分を出せる場所として適応指導教室の存在がある。</p>	25 年度決算(千円)		44

## ・活動指標

事業名	活動名	指標	H23年度 実績	H24年度 実績	H25年度 実績	備考
教室 適 指 導 事 業	適応指導教室	在籍児童 生徒数	17	14	18	



【すみれ教室】

### 《課題》

学校に登校できなくなった児童・生徒については、学校と連携し、個々の家庭環境や状況を早期に把握し、適切に対策を講じる必要がある。適応指導教室の入級に関しては、本人・保護者、学校と情報を共有し、きめ細やかな対応が必要である。

### 《今後の取組み》

学校との連携を密にするため、各学校の教育相談担当教員や適応指導教室に在籍する各学校の担任教員との懇談会を設け、個々の児童・生徒についての情報交換を行い、共通理解を図ることにより、適切な対応につなげていきたい。

# 学童保育の充実

## 学校教育課

総合計画の 位置付け	<p>政 策 名 : 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち</p> <p>施 策 名 : 子育てと仕事の調和</p> <p>主な取組み事項: 学童保育の充実</p>
目 的	<p>保護者が、労働等により昼間家庭にいない小学1年生から3年生の児童に対し適切な保護を行うと伴に、児童の健全育成を図ることを目的とする。</p>

主な取組み事項の経緯	
<p>平成22年度に、福祉部より事務事業が教育委員会へ移管され、現在学校教育課が学童保育事業を行っている。</p> <p>現在は、各小学校区に学童保育所を12箇所設置し、昼間家庭において適切な保護を受けることができない小学生を対象に平日は放課後から18時まで、土曜日は8時30分から18時まで、長期休業期間は8時から18時まで保育を実施している。</p>	

### ・主 な 事 業

<b>1. 学童保育運営事業</b>			
<p>〈目的〉 小学校との連携、指導員の資質向上、施設整備等を行い、学童保育所を安心・安全な居場所として提供する。</p> <p>〈取組みの状況〉 小学校との連携により児童の健康管理、安全確保、情緒の安定を図り、遊びを通して自主性、社会性を培えるように指導を行うと共に、指導員の資質向上のための研修会等を開催している。</p> <p>〈成果〉 学校教育課が窓口になったことにより、小学校との連携が進み児童を包括的に見守れるようになってきた。 また、長期休暇中には、ALT 講師の派遣など、教育的な活動を推進することができた。</p> <p>〈評価〉 保育中における大きなトラブルもなく、保護者が安心して就労できる場を提供することができた。 児童については、指導員や異学年児童との関わりの中で社会性や、適切な生活習慣を身につけている。</p>	行政関与の妥当性	B	総合評価  B
	必要性	A	
	有効性	A	
	効率・経済性	B	
	24年度決算(千円)		64,333
	25年度決算(千円)		67,244

## ・活動指標

事業名	活動名	指標	H23年度 実績	H24年度 実績	H25年度 実績	H26年度 予定	将来目標 (平成32年度)	備考
指導員 研修事業	指導員 研修	目標 (回)	12	12	12	12	12	放課後子ども教室との合 同研修会含む
		実績 (回)	7	11	11	12	12	



【学童保育所での保育風景】



【学童保育所】

### 《課題》

老朽化した施設が多く、安全な居場所づくりを目指すため、改修工事が必要である。  
また、質の高い運営を行うため、指導員の確保とスキルアップを図る必要がある。

### 《今後の取組み》

児童を包括的に見守るため、学校、地域との連携をより強化するとともに、施設改修と指導員研修を行う。

# 生涯学習機会の充実

## 生涯学習課

総合計画の 位置付け	政 策 名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施 策 名：「だれでも・どこでも・いつでも」学び、楽しめる環境の充実 主な取組み事項：生涯学習機会の充実
目 的	市民が学習に取り組める環境の整備と、生涯学習に取り組むことを通して、その学習内容をまちづくりに活かせるよう、連携・協働を目的とする。

主な取組み事項の経緯
効率的・効果的な学習機会を提供できるよう、講座参加者からのアンケート等を参考にしてニーズを把握し、学習内容の充実を図ってきた。

### ・主 な 事 業

<b>1. 市民公開講座事業</b>			
<p>〈目的〉 市民の学習意欲に積極的に対応し、生涯学習を活性化するため、市と連携している大学との協働により、市民に学習機会の場を設け支援することを目的とする。</p> <p>〈取組みの状況〉 昨年度好評であった「親子関係」をテーマにして、子育てに関わる方を対象とした講座を今年度も開催した。</p> <p>〈成果〉 子育てに関わる方を対象とした講座を開催したことにより受講者が増加した。</p> <p>〈評価〉 子育てに悩む親の参加者が増加しているのは、市民にニーズ等が受け入れられていると考える。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必 要 性	A	B
	有 効 性	B	
	効率・経済性	B	
	24年度決算(千円)		
25年度決算(千円)			263
<b>2. 市美術展覧会事業</b>			
<p>〈目的〉 市民に芸術に対する関心を高め生涯学習の一助とするとともに、市の美術・芸術の振興を図ることを目的とする。</p> <p>〈取組みの状況〉 市民に芸術に対する成果を発表する場を提供し、市の美術・芸術の振興を図っている。</p> <p>〈成果〉 市内外を問わず日々研鑽した作品 181 点の出品があった。出品作品も年々レベルの向上が見られ、また、観覧数も増加し、芸術に対する関心の高さが伺われた。</p> <p>〈評価〉 出品数も増加し、レベルの高い美術展覧会と評価を受け、より一層の充実・発展が図られたものと考えられる。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必 要 性	A	B
	有 効 性	B	
	効率・経済性	B	
	24年度決算(千円)		
25年度決算(千円)			742

3. 学級生大会事業			
<p>〈目的〉 社会教育学級生が一年間の学級活動の総まとめとした「テーマ」を掲げ、学級生同士が自己啓発に努め、連帯意識の向上を図ることを目的とする。</p> <p>〈取組みの状況〉 一年間の学級活動の発表の場であるとともに、自己啓発の場でもあるため、支援・協力・助言を的確に行うよう取り組んでいる。</p> <p>〈成果〉 学級生大会の開催は、自己啓発を高め、連帯意識の向上につながっている。</p> <p>〈評価〉 学級生が一年間の学級活動を発表することにより、学級間の成果・問題点が共有され、学級生同士の連帯感を強めている。</p>	行政関与の妥当性	B	総合評価
	必要性	B	B
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	24年度決算(千円)		
25年度決算(千円)			68

### ・活動指標

事業名	活動名	指標	H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	H26年度予定	将来目標(平成32年度)	備考
事業 市民公開講座	市民公開講座	開催数	5	5	5	5	5	環境学習講演会
		参加者数	310	404	439	450	500	
		決算(予算)額(千円)	183	178	263	361	—	提携している大学との協力開催
事業 市美術展覧会	市美術展覧会	出品数(点)	161	161	181	190	200	
		来場者数	581	750	828	850	900	
		決算(予算)額(千円)	736	795	742	694	—	
学級生大会事業	学級生大会	参加者数	204	189	181	200	230	平成26年度より「高齢者学級育成事業」を統合し名称を「学級生育成事業」に名称変更
		決算(予算)額(千円)	32	64	68	336	—	



【 市民公開講座 】



【 市美術展覧会 】



【 学級生大会 】

### 《課題》

市民公開講座は、市民が参加し易いテーマを基に事業を行っているが、テーマにより参加する年齢層に偏りが生じているのも事実であることから、各年齢層に共通するテーマが課題と考えられる。

### 《今後の取組み》

事業開催については、市民の現代的課題を取り入れた学習機会の提供を行うとともに、学習成果の発表の機会を増やし、情報の拡大などを図ることが重要である。

# スポーツ団体の支援

## 生涯学習課

総合計画の位置付け	<p>政 策 名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち</p> <p>施 策 名：「だれでも・どこでも・いつでも」学び、楽しめる環境の充実</p> <p>主な取組み事項：スポーツ団体の支援</p>
目 的	<p>スポーツ少年団、レクリエーション協会等の活動支援と充実、広範な年齢層に多様な種目のスポーツを指導することができるスポーツ推進委員等の育成・支援によって充実を図り、多様化・高度化する市民のスポーツニーズに対応する。</p>
<p>主な取組み事項の経緯</p>	
<p>スポーツ少年団においては、スポーツを通じて健全育成に努めている。指導者においても、講習会・研修会を開催し指導者の資質向上に努めている。また、レクリエーションの普及振興を図るため、体験入会デーを開催し、活動状況を発表し、市民参加を呼びかけ、体験を行い参加の拡大を図っている。</p>	

### ・主 な 事 業

<p><b>1. スポーツ少年団支援事業</b></p>			
<p>〈目的〉 香芝市スポーツ少年団の普及と育成及び活動の活性化を図り、青少年にスポーツを振興し、青少年の健全な育成指導に関する事項を協議し、相互の連絡を密にすること。</p> <p>〈取組みの状況〉 入・退団式、親善競技大会、種目別交流大会等、スポーツを通じて県内外のスポーツ少年団と交流活動を行っている。指導者・母集団においては、研修会・講習会にて指導者の資質の向上に努めている。</p> <p>〈成果〉 各団が自主的で主体性をもった活動を展開しており、スポーツを通して青少年の健全育成を図った。平成 25 年度の団員は、708 名であり、指導者は 289 名である</p> <p>〈評価〉 本来の主旨に相反するような技術向上だけを重視する偏った指導が部で見受けられ青少年の健全な指導育成につながっていない懸念がある。指導者の資質向上のため、研修会・講習会・意見交換等を行なう必要がある。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価  B
	必要性	A	
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	24 年度決算(千円)		
25 年度決算(千円)			1,270
<p><b>2. 各種団体支援事業</b></p>			
<p>〈目的〉 市民の余暇生活を開発し、充実させるため、レクリエーションの普及振興を図り、市民の心身の健全な発達と明るく豊かな生活の形成に資することを目的とする。</p> <p>〈取組みの状況〉 市民だれもが参加し活動出来るイベントとして、クラブフェスティバル・ペタンク大会・体験入会デーの開催と、年間を通して協会加盟クラブ活動日に市民のオープン参加を呼びかけている。</p>	行政関与の妥当性	B	総合評価  B
	必要性	A	
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	24 年度決算(千円)		

<p>《成果》 体験入会デーを開催し日頃の活動の成果を発表し、加入募集を行い 15 名の入会がありレクリエーションの普及振興が図られた。</p> <p>《評価》 各種イベント等を開催しているが拡大に繋がっておらず、また、PR不足でもある。</p>	25 年度決算(千円)	0
---	-------------	---

・活動指標

事業名	活動名	指標	H23 年度実績	H24 年度実績	H25 年度実績	H26 年度予定	将来目標(平成 32 年度)	備考
スポーツ少年団支援事業	スポーツ少年団事業	団員登録人数	797	768	708	653	800	平成 26 年度より「各種団体支援事業」に統合
		加入率 (%)	17.0	16.3	15.2	14.2	20.0	
		決算(予算)額 (千円)	1,270	1,270	1,270	1,270	—	
各種団体支援事業	レクリエーション協会事業	加入者数	492	425	425	450	500	平成 25 年度よりまちづくり提案活動支援事業
		事業実施数	9	9	3	3	5	
		決算(予算)額 (千円)	180	180	0	0	—	



【スポーツ少年団入団式】



【レクリエーション活動】

《課題》

各団のそれぞれ自主的・自発的に活動を行っているが、加入する団員が減少傾向にあり、また勝敗にこだわるクラブチーム的な活動に成りつつある。指導に関しても、指導者等の育成・充実を図るとともに、資質向上を行う必要がある。

レクリエーション事業においては、参加者の高齢化も進んでいる。

《今後の取組み》

スポーツ少年団の原点であるスポーツの遊び・スポーツを通じてこころとからだを育てることを見つめ直し、積極的に地域と連携・協力し、住民にも理解していただける事業の充実・発展に取組み、本来のスポーツ少年団活動にしていきたい。

指導者の資質向上のために、より一層の研修会・講習会・意見交換の充実をはかっていきたい。

市民の余暇生活を充実させ、明るく豊かな生活に資するためにも、レクリエーション普及活動・振興の強化を図る必要があり、特に若年層へのPR活動を積極的に行っていきたい。

# 中央公民館活動の活性化

## 中央公民館

総合計画の位置付け	<p>政 策 名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち</p> <p>施 策 名：「だれでも・どこでも・いつでも」学び、楽しめる環境の充実</p> <p>主な取組み事項：中央公民館活動の活性化</p>
目 的	<p>生涯学習活動の拠点施設として、市民の積極的な参画を促し、生涯学習の場、ふれあいの場として各種講座や講演会等を開催し、学習機会の提供と学習活動の支援を行う。</p> <p>また、教育・文化サークル団体の活動の場を提供するとともに、公民館まつり等で日頃の学習成果を発表し、会員相互の親睦を図る。</p>

主な取組み事項の経緯	
<p>各種講座、高齢者講座、夏休み親子体験教室、総合事業等を開催した。特に「開講のつどい」や「春のつどい」で生涯学習の必要性、大切さや連帯感を確認した。公民館まつり実行委員会を立ち上げて、各サークル団体の学習活動の成果を発表する機会を設けて実施した。また、今年度よりサークル活動のきっかけづくりとして、10の入門講座を開催した。</p>	

### ・主 な 事 業

<b>1. 生涯学習機会提供事業</b>			
<p>〈目的〉 市民の積極的な参画を促し、だれもが学習の機会に恵まれ、生涯学習のきっかけづくりの場、情報の提供・推進を図る。</p> <p>〈取組みの状況〉 12の各種講座、10の入門講座、13の夏休み親子体験教室を募集し多くの講座で定員を超える申し込みがあり、抽選で受講生を決定した。今年度より「公民館まつり」の実施を行政主導から、各団体の参加者による公民館まつり実行委員会を組織立てて実施した。</p> <p>〈成果〉 市民の方が各種講座、つどいに参加し、学習意欲の向上だけではなく、気持ちにゆとりができ、人々が交流するよい機会になった。また、新たに入門講座を開くなどしたために、生涯学習に取り組む良い機会と、場の提供が出来たものと考えている。</p> <p>〈評価〉 公民館の主催する各種講座・教室への参加者数や公民館の利用者数等の増加を見ると公民館事業は有効に機能しているものと考えられるが、青少年の参加等は、他の年齢層に比べると少ない傾向であることが、今後の課題である。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必要性	A	A
	有効性	A	
	効率・経済性	A	
	24年度決算(千円)		
25年度決算(千円)			2,010
<b>2. 登録団体育成事業</b>			
<p>〈目的〉 サークル団体の養成と育成を図り、活動支援をして公民館活動の活性化を図った。</p> <p>〈取組みの状況〉 平成25年度は114の団体登録があり、継続的に公民館を利用して学習成果を高め技能の習得に努めてきた。</p> <p>〈成果〉 公民館まつりが各種団体の主導による開催となったことで、活動者自らの公民館まつりとなり、また実行委員会を通じて、日頃出会う</p>	行政関与の妥当性	B	総合評価
	必要性	A	B
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	24年度決算(千円)		

<p>ことの少ない各種団体の横のつながりが出来つつあることの意味は大きい。また新たに入門講座を開催して、各種団体の学習内容に気軽に触れることが出来るようにしたことで各種団体の会員数が増えた。</p> <p>《評価》 登録団体の活動は活発な状況ではあるが、各サークル団体とも会員の高齢化が進んでおり、今後も創意工夫を行いながら世代間の交流も含め活性化したい。</p>	25年度決算(千円)	—
--	------------	---

### ・活動指標

事業名	活動名	指標	H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	H26年度予定	将来目標(平成32年度)	備考
生涯学習機会提供事業	講座・教室	開設数	22	22	35	33	35	親子体験教室含
		決算(予算)額(千円)	1,102	991	1,045	918	—	
	開講のつどい	参加者数	550	500	540	540	800	モナミ
		決算(予算)額(千円)	380	312	333	339	—	
	春のつどい	参加者数	800	600	710	—	—	26年度より開講のつどいと一本化
		決算(予算)額(千円)	380	289	308	—	—	
	公民館まつり	参加者数	4,950	4,800	5,400	5,500	6,000	モナミ・本館
決算(予算)額(千円)		340	328	324	344	—		
育成事業	登録団体育成事業	団体数	114	113	114	114	120	
		会員数	2,349	2,277	2,225	2,198	2,300	
中央公民館	利用状況	利用件数	4,048	4,815	5,070	5,500	6,000	本館のみ
		利用人数	68,245	74,164	83,743	85,000	94,000	〃
		使用料(千円)	4,185	4,460	4,311	4,500	5,000	〃



【公民館まつり】



【成人講座】

#### 《課題》

市民の学習意欲のニーズが高まる中、公民館を利用する人は人口を超えた利用人数となっているが、今年度開催した事業全体の内容等を検討して、今後とも社会変化に対応した各種講座や事業等の充実に努める。そして登録団体の高齢化を考えて支援対策と人材活用を講じる必要がある。公民館まつり実行委員会では多様な要望が出されるが、それをいかに実行できるかが課題である。

#### 《今後の取組み》

登録団体の学習活動支援は継続し、特に新たに実施した入門講座は、今後も登録団体と連携を取りながら、その活性化に努める。また指導者の高齢化が進んできたので次代を担っていただける指導者の発掘、あるいは育成に努める。

# 図書館機能の充実

## 市民図書館

総合計画の位置付け	<p>政策名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち</p> <p>施策名：「だれでも・どこでも・いつでも」学び・楽しめる環境の充実</p> <p>主な取組み事項：図書館機能の充実</p>
目的	乳幼児から高齢者まであらゆる人が読書に親しめる環境の整備を図るとともに、市民の暮らしやまちづくり、地域の課題解決に役立つ図書館を目指す。

<p>主な取組み事項の経緯</p> <p>平成4年4月の開館以来、「本との出会い・人との出会い」を大切に、「暮らしに役立つ図書館」「親しまれる図書館」を目指し、ブックポスの設置、貸出冊数の拡大、夜間開館、祝日開館の実施、パソコンや携帯電話からの蔵書検索・予約など、利便性の向上を図ってきた。また、学校や地域・関係機関とも連携を深め、団体貸出や巡回文庫の実施など、子どもの読書活動の推進に取り組んできた。</p>	
---	--

### ・主な事業

<p><b>1. 図書館資料提供事業</b></p>			
<p>〈目的〉 市民の主体的な学習への支援や多種多様な読書要求に対応するために、図書等の資料や情報の提供を行う。</p> <p>〈取組みの状況〉 図書や視聴覚資料などを収集・整理・保存し、閲覧、貸出、調査・相談、複写などにより、資料や情報の提供を行っている。</p> <p>〈成果〉 貸出冊数は減少傾向にあるが、パソコンや携帯電話からの予約サービスの導入により、予約件数は伸びている。</p> <p>〈評価〉 社会の変化の中で、図書館の利用が多様化していることもあり貸出冊数は減少しているものの、資料を収集し利用者に提供するという図書館の本来の事業は定着し有効に機能している。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必要性	A	B
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	24年度貸出冊数	560,439	
	25年度貸出冊数	528,194	
<p><b>2. 子どもの読書活動推進事業</b></p>			
<p>〈目的〉 子どもの豊かな心を育むために、あらゆる機会や場所で本と親しむことができるよう、子どもの読書環境の整備を図る。</p> <p>〈取組みの状況〉 市民グループの協力によりおはなし会などの事業を実施するほか、巡回文庫の実施などにより、子どもと本との出会いの場の拡充を図ってきた。</p> <p>〈成果〉 貸出冊数は横ばい傾向であるが、巡回文庫の拡充により団体貸出は増加している。</p> <p>〈評価〉 巡回サービスは、移動図書館車「ぶっくる号」の活用により充実が図れたものの、事業全体では、さらに関係機関との連携を深めるとともに中・高校生への働きかけの必要がある。</p>	行政関与の妥当性	B	総合評価
	必要性	A	B
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	24年度貸出冊数	218,855	
	25年度貸出冊数	207,649	

## ・活 動 指 標

事業名	活動名	指 標	H23 年度 実績	H24 年度 実績	H25 年度 実績	H26 年度 予定	将来目標 (平成 32 年度)	備 考
図書館資料提供事業	蔵書冊数	冊	226,952	231,055	233,588	235,000	235,000	図書・雑誌・視聴覚
	貸出冊数	冊	589,204	560,439	528,194	530,000	570,000	図書・雑誌・視聴覚
	予約件数	件	27,654	28,814	29,859	31,000	35,000	
	レファレンス 件数	件	3,197	2,915	2,190	2,500	3,500	
子どもの読書活動 推進事業	貸出冊数	冊	222,501	218,855	207,649	210,000	220,000	児童・ヤング図書
	団体貸出	冊	13,072	14,931	17,583	18,000	20,000	学校・幼稚園等
	おはなし会	人	551	576	533	550	550	月 2 回開催
	えほんたいむ	人	1,081	884	899	950	1,000	月 2 回開催



【二上幼稚園図書館見学：おはなし会】

### 《課題》

市民図書館へのニーズの多様化や社会情勢の変化等により、個人貸出は減少傾向にある。本市の状況から、現在の子育て世代へのサービスや子どもの読書活動推進へ向けた取り組みを進めていくとともに、今後、高齢化社会を見据えた蔵書構成や来館が困難な方へのサービス展開、図書館サービス網の構築にむけた取り組みも必要となってきた。また、館内視聴が減少している視聴覚室について、機器の老朽化もあり、今後のあり方が課題である。

### 《今後の取り組み》

平成 24 年度末に稼動した移動図書館車「ぶっくる号」について、今後、巡回サービス機能を段階的に拡充できるよう努めていきたい。当面の目標として年間約 1 万冊の利用を目指したい。視聴覚室については、一部の座席を市民持込パソコンの利用席に転用を図るなど取り組みを進めてきたところであるが、当面の予定として、中央のモニター機器を撤去し、レイアウト変更し広くスペースを確保することで、多目的な利用が可能となるように取り組む。さらに、今後の活用については、調査検討を進め、有効活用できるよう取り組みを進めていきたい。

# スポーツ施設維持・運営事業

## 生涯学習課

総合計画の位置付け	政策名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名：「だれでも・どこでも・いつでも」学び、楽しめる教育環境の充実 主な取組み事項：スポーツ施設維持・運営事業
目的	市民に対する健康増進の効果及びサービス面での質を向上させ施設を良好な状態に保つための補修及び維持整備を図る。

主な取組み事項の経緯
(社)香芝市体育協会を指定管理者として社会体育施設の管理運営と市民スポーツ事業の推進を図っている。老朽化により施設等の補修及び改修が多く維持整備工事等が急務であり計画的に整備を進め、安全に施設利用ができるよう努めている。

### ・主 な 事 業

<b>1. 社会体育施設運営事業</b>			
〈目的〉 指定管理者のスポーツ振興事業能力を活用しつつ、地域住民に対する健康増進の効果及びサービス面での質を向上させ、福祉の一層の増進を図る。 〈取組みの状況〉 (社)香芝市体育協会を指定管理者とし社会体育施設の管理運営と市民スポーツ事業の推進を図っている。 〈成果〉 市民サービスの向上、コストの縮減を図ることができた。また、ノルデックウォーキング・ドッチボール・カローリングなど参加しやすい教室を開催し、スポーツ事業の拡大を図ることができた。 〈評価〉 指定管理者に社会体育施設の管理運営を委託したことにより、その成果は着実に出てきている。	行政関与の妥当性	B	総合評価
	必要性	A	B
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	24年度決算(千円)	75,867	
25年度決算(千円)	68,534		
<b>2. 社会体育施設維持整備事業</b>			
〈目的〉 施設を良好な状態に保つための補修及び維持整備事業 〈取組みの状況〉 指定管理者と協議を図りながら、施設等の補修及び維持整備工事を進めている。 〈成果〉 緊急を要するものより、随時、改修・補修を行った。 〈評価〉 利用者の利便性・安全を考え優先順位をきめたうえ最少限度の改修・補修を行っており、安全に利用できている。今後は年次的整備計画を図っていく必要がある。	行政関与の妥当性	B	総合評価
	必要性	A	B
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	24年度決算(千円)	4,792	
25年度決算(千円)	1,855		

## ・活動指標

事業名	活動名	指標	H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	H26年度予定	将来目標 (平成32年度)	備考
社会体育施設運営事業	体育施設運営	利用者数	260,992	270,277	235,999	270,000	291,000	
		社会体育施設数	10	10	10	10	—	
		決算(予算)額(千円)	79,655	75,867	68,534	70,526	—	
社会体育施設維持整備事業	補修工事	補修・工事件数	6	6	9	10	—	
		決算(予算)額(千円)	5,775	4,792	1,855	47,570	—	



【総合体育館】



【健民運動場】



【高塚テニスコート】

### 《課題》

各施設は、経年劣化により、老朽化が進み、補修や改修が必要となっている箇所が多く、計画的に補修や改修を行っていくことが求められる。

市民ニーズの多様化により、参加しやすい事業・教室の開催が必要である。

### 《今後の取組み》

施設維持については、利用者の利便性・安全性を考え、優先順位を決めるなど計画的に補修や改修を行い、良好な施設環境の維持に努める。

市民ニーズを反映した生涯スポーツの紹介、指導を行う教室の開催や「見たい・知りたい・やりたい」方々に手軽に参加者できるニュースポーツの紹介をしていきたい。

総合公園の一施設である、総合プールについて、平成24年は開業したが、経年劣化により安全確保が難しいため、抜本的に見直しが必要である。

今後もさらなる市民サービスの向上を図るため、引き続き指定管理・各種団体と連携を密にしていきたいと考えている。

# 博物館機能の充実

## 二上山博物館

総合計画の 位置付け	政 策 名：みんなで創る豊かで将来性のあるまち 施 策 名：歴史文化財の保存と継承・展開 主な取組み事項：博物館機能の充実
目 的	地域の歴史・文化財等の収集・調査・研究を継続的に進め、その成果は普及事業等を通じて積極的に公開を促進する。それにより、地域文化の活用と活性化を図りつつ、次代に引き継ぐための保存の措置を講じる。

主な取組み事項の経緯	
地域の魅力ある歴史資源を活用した質の高い生涯学習の機会を提供し、市民の高度化する学習ニーズに対応した一過性にならない継続して学ぶことができる学習環境の充実を図っている。また、平成 24 年度から市内小・中学校との連携による郷土学習授業（博学連携教育）を積極的に推進し、児童・生徒に地域文化への理解と関心を高めるための多様な学習機会を提供している。	

### ・主 な 事 業

1. 学習環境充実事業				
<p>〈目的〉 博物館の特色を打ち出した事業を展開し、一過性にならない継続して学ぶことができる学習環境の充実を図る。</p> <p>〈取組みの状況〉 市民に地域の魅力ある歴史資源を活用した質の高い学習機会の充実に努めている。</p> <p>〈成果〉 石の博物館ならではの特色ある事業を展開し、参加者は年々増加の傾向にある。</p> <p>〈評価〉 地域の歴史遺産に親しみ、理解を深めるための歴史学習を支援できる博物館に対するニーズは高い。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価  B	
	必 要 性	A		
	有 効 性	B		
	効率・経済性	B		
	24 年度決算(千円)		4, 232	
	25 年度決算(千円)		3, 787	
2. 学校教育連携協力事業				
<p>〈目的〉 児童・生徒に多様な学習機会を提供し、郷土学習への理解と関心を高めるための博学連携教育を推進する。</p> <p>〈取組みの状況〉 平成 24 年度に博学連携教育検討委員会を設置し、小・中学校各 1 校による試行授業を経て、翌年度から本格的に実施している。委員会では、授業方法や内容等について継続的に協議を進めている。</p> <p>〈成果〉 教室での授業とは違った感動や、本物に接することで得られる教育的効果が現れている。</p> <p>〈評価〉 学校教育と連携して、多様な学習機会を提供することは、郷土学習への理解を深める子どもの育成に貢献できる。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価  A	
	必 要 性	A		
	有 効 性	A		
	効率・経済性	A		
	24 年度決算(千円)		0	
	25 年度決算(千円)		0	

## ・活 動 指 標

事業名	活動名	指 標	H23 年度 実績	H24 年度 実績	H25 年度 実績	H26 年度 予定	将来目標 (平成 32 年度)	備 考
学習環境充実事業	普及啓発 事業	博物館観覧 者数	8,503	9,224	8,168	9,000	11,000	
		博物館事業 参加者数	7,867	7,937	8,471	8,500	10,000	
		ワークショ ップ参加者 数	2,361	2,770	2,350	2,500	3,000	
協力事業 学校教育 連携	博学連携 教育事業	実施校校数	—	2	3	4	14	市内小学校第 6 学年、 中学校第 3 学年
		参加児童・ 生徒数	—	336	434	500	1,800	小学校第 6 学年 942 人、 中学校第 3 学年 894 人



【ふたかみ歴史散歩】

### 《課題》

地域の歴史や文化財に親しみ、その理解を深めるための歴史学習を支援する博物館事業への興味・関心は高い。市民ニーズに対応した事業の拡大、さらなる内容の充実に取り組んでいく必要がある。

また、博物館資料の増加に伴う展示・収蔵施設の狭隘、経年劣化による施設整備の改修など、多くの課題が顕在化している。平成 25 年度において、常設展における防犯カメラ 1 台を設置したが、それに伴うモニターの整備が急務である。さらに、二上山 Q&A クイズコーナーの刷新など、機器の故障箇所については、順次修理・交換を検討しているところである。

### 《今後の取組み》

地域の歴史・文化財を活かした様々な学習機会を提供し、市民の年齢層や多様化・高度化する学習ニーズを把握し、それぞれに配慮した事業内容の充実に図っていく。そのためには、博物館資料の調査・研究を並行して推進し、その成果は特別展などを通じて公開・活用していきたい。さらに、家族で楽しめるワークショップや博学連携教育で実施する授業内容の工夫・充実、そして他機関との連携協力による地域文化の活用と活性化などに積極的に取り組んでいきたい。

また、施設設備の維持管理については、当面する課題の解決に向けた具体的な検討を順次進め、今後地域の文化財を適正な環境で維持管理し、継続的な観覧・保存ができる全体的な環境整備を進めていきたい。

# 尼寺廃寺跡史跡整備の推進

## 生涯学習課

総合計画の 位置付け	<p>政 策 名：みんなで創る豊かで将来性のあるまち</p> <p>施 策 名：歴史文化財の保存と継承・展開</p> <p>主な取組み事項：尼寺廃寺跡史跡整備の推進</p>
目 的	<p>飛鳥時代後半に造営された史跡尼寺廃寺跡を歴史公園として整備することによって、貴重な文化遺産を保護して後世に継承し、市民に憩いの場と地域の文化財に触れ合う場を提供するとともに、広く文化財保護意識の向上を図り、さらに、全国に観光資源として尼寺廃寺跡をアピールしていく。</p>

主な取組み事項の経緯	
<p>尼寺廃寺跡は平成 14 年 3 月 19 日に国史跡に指定され、整備事業として平成 15 年度から用地買収、平成 19 年度から整備工事を開始している。平成 25 年度には文化庁の補助金で塔跡と金堂跡を整備し、国土交通省の社会資本整備総合交付金で来訪者のための駐車場整備工事を行った。今後は整備検討委員会で整備後の活用を考えたガイダンス施設の内容を検討するとともに、整備後の適切な管理方法についても議論していく。</p>	

### ・主 な 事 業

1. 尼寺廃寺跡史跡整備推進事業				
<p>〈目的〉 貴重な文化遺産を保護して後世に継承し、市民に憩いの場と地域の文化財に触れ合う場を提供するとともに、広く文化財保護意識の向上と観光資源としても活用を図る。</p> <p>〈取組みの状況〉 整備検討委員会を開催して具体的な整備方法や整備後の活用等について議論するとともに、整備工事の施工と整備に伴う報告書作成のための遺物整理等の作業を行った。</p> <p>〈成果〉 平成 25 年度は整備検討委員会を 2 回開催し、平成 26 年度の整備工事の内容、及び整備後の活用を考えたガイダンス施設の内容を議論して実施設計に反映した。そして、予定していた塔跡と金堂跡の整備工事を施工し、塔跡には発掘時の心礎を写真で表示する陶板を設置した。</p> <p>〈評価〉 平成 25 年度において、塔跡と金堂跡の遺構整備が完了し、見学者が来られても視覚的に理解できるようになった。さらに、整備検討委員会で指定地全体の整備内容もほぼ決まり、目的達成に向けて着実に進捗している。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価  A	
	必要性	A		
	有効性	A		
	効率・経済性	B		
	24 年度決算(千円)			28, 147
	25 年度決算(千円)			94, 790

## ・活動指標

事業名	活動名	指標	H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	H26年度予定	将来目標 (平成32年度)	備考
整備推進事業 尼寺廃寺跡史跡	尼寺廃寺跡整備事業	整備率(%)	76.03	78.06	84.80	85.50	100	平成27年度完成を目指して取り組んでいる。
		決算(予算)額(千円)	141	28,147	94,790	80,004	—	



【塔心礎表示写真陶板設置状況現況】



【塔基壇全景(発掘調査時)】

### 《課題》

平成26年度は文化庁の補助金で塔跡と金堂跡以外の回廊や中門跡をはじめ、築地や東門跡表示も植栽等に表示し、史跡指定地の整備工事を完成させる予定である。

しかし、指定地外で建設を予定しているガイダンス施設については、その活用方法によって内容や規模が決まることから、今後とも継続的に整備検討委員会を開催して議論していく必要がある。

### 《今後の取組み》

今後も継続して整備工事を進めると同時に、整備検討委員会でガイダンス施設等の詳細な部分や完成後の活用についても議論を進め、整備事業全体がスムーズに進むよう努める。

# 文化財の保護・管理

## 生涯学習課

総合計画の位置付け	政 策 名：みんなで創る豊かで将来性のあるまち 施 策 名：歴史文化財の保存と継承・展開 主な取組み事項：文化財の保護・管理
目 的	文化財を後世に保存・継承するため、文化財保護に関する必要な施策を講じて文化財の保護啓発に努めるとともに市民の文化的向上に資することを目的とする。

主な取組み事項の経緯
平成5年度に文化財保護条例を制定して以降、文化財の指定をはじめ、指定文化財の修理や管理に伴う補助金交付事業、文化財の巡視活動や防火訓練の実施など各種の文化財を保護するための支援策を講じるとともに、二上山博物館と連携して文化財説明板の設置や文化財普及図書の発行、出前講座の実施、文化財や歴史に関する相談業務等を通じて文化財の普及啓発を行っている。

### ・主 な 事 業

1. 文化財保護啓発事業				
〈目的〉 市内の文化財を広く市民に周知して活用を図り、文化財の保護啓発に努める。 〈取組みの状況〉 文化財の巡視活動や市民参加の防火訓練等を通じて文化財の保護・管理に努めるとともに、文化財や歴史に関する資料の提供や学習相談業務を通じて文化財の普及啓発を図っている。 〈成果〉 市民や関係機関と連携して各種文化財の保護管理が進められており、博物館来館者への文化財や歴史に関する相談業務等を通じて文化財の普及啓発を図ることができた。 〈評価〉 日頃の活動により、文化財の被害は無く、適切に文化財の保護管理が進められた。また、文化財や歴史に関する相談業務等を通じて文化財の普及啓発が図られた。	行政関与の妥当性	A	総合評価	
	必要性	A	A	
	有効性	A		
	効率・経済性	B		
	24年度決算(千円)			31
	25年度決算(千円)			0
2. 文化財保護審議会事務局事務				
〈目的〉 文化財を後世に良好な状態で保存・継承するため、文化財の有識者の指導を得ながら必要な施策について調査・審議する。 〈取組みの状況〉 市内に所在する文化財の調査を進め、これまで31件の市指定文化財の指定を図るなど文化財の保存を図ってきた。 〈成果〉 学術的価値を把握するため、各種文化財に関する資料を収集し、順次調査を進めている。平成25年度は文化財保護審議会の専門委員による旧杉田家鋳物関係資料(古文書・鋳物の鋳型等)の調査を開始した。 〈評価〉 各種文化財に通じた文化財保護審議会委員の助言と指導により、適切に文化財の保存・管理が進められている。今後は調査の成果を整理し、積極的に活用していく必要がある。	行政関与の妥当性	A	総合評価	
	必要性	A	A	
	有効性	A		
	効率・経済性	B		
	24年度決算(千円)			25
	25年度決算(千円)			208

## ・活動指標

事業名	活動名	指標	H23年度 実績	H24年度 実績	H25年度 実績	H26年度 予定	将来目標 (平成32年度)	備考
啓発事業 文化財保護	文化財 保護啓発 事業	文化財の 巡視回数	12	12	12	12		平成23年度から 出土品の収蔵施設 である文化財調査 室(真美ヶ丘5丁 目4番16号所在) の維持管理経費 (光熱費等)を埋蔵 文化財発掘調査事 務事業に変更した ため、決算額の変 動がある。
		決算(予算) 額(千円)	31	31	0	0	—	
事務局事務 文化財保護審議会	文化財 保護審議 会事務局 事務	指定件数	31	31	31	31		
		決算(予算) 額(千円)	108	25	208	268	—	



【逢坂・大坂山口神社での防火訓練実施状況】

火災から文化財を守る！同社氏子の方々による文化財(模擬)持ち出し訓練

### 《課題》

文化財の保護管理を徹底するためには地域住民との協力・連携は不可欠であり、さらなる協力体制の強化が望まれる。また、文化財の普及啓発を図るため、これまでの活動で蓄積された郷土の文化財や歴史に関する資料、情報を如何に整理・保存し、活用していくかが大きな課題となっている。

### 《今後の取組み》

今後も市民や関係機関と連携して文化財の保護管理に努めるとともに、市内の文化財や歴史に関する資料の調査・研究を進め、その成果を博物館の展覧会や歴史講座の開催、日常の学習相談等を通じて普及・啓発を図っていきたい。

## ※評価・点検の方法

- ① 各事業を担当する教育委員会事務局職員（ワーキンググループ）により事務事業点検をしました。
- ② 教育委員会事務局職員（教育長・教育部長・教育部次長・担当課長）による内部評価をしました。
- ③ 教育委員会において総合的に評価を行いました。
- ④ 知見者から意見をいただきました。

## 2. 点検・評価シートに関する知見者の意見

香芝市教育委員会においては、香芝市の子どもたちや市民のために、工夫を重ねながら、諸事業が執行されている。特に、前年度までの取組や将来目標の実現に向けて、それぞれの施策や取組事業ごとに、自己評価や改善を重ね、よりよいものにしようとする姿勢が伺える。

### ○ 家庭教育の充実

- ・ 家庭教育学級においては、学級生と学校、行政との連携が図られ、乳幼児をもつ親子育て支援としての役割を果たした。託児の継続実施や家庭教育学級と合同学習会の統合による更なる充実を期待する。

### ○ 地域教育力の向上について

- ・ 平成 25 年度よりスタートした「学校・地域パートナーシップ事業」は、学校と地域がコミュニティとしてのつながりを深め、子どもたちを、学校と地域で支え、育てていく体制づくりのスタートとなった。
- ・ 放課後子ども教室も、平成 24 年度は参加希望者全員を受け入れることができていない状況にあったが、安全確保の上で、積極的な受け入れを努力されている。

### ○ 幼児教育の充実、児童生徒の学力・体力の向上について

- ・ 幼稚園や小学校における国際理解教育や外国語活動の充実は、香芝市の教育の特色である。また、体力向上推進事業等も含め、幼稚園や保育所、小学校や中学校等の校種間連携も、引き続き積極的に行っていただきたい。
- ・ 中学校においては、弓道や剣道、陸上、水泳、卓球、吹奏楽、合唱等で全国大会や近畿大会に出場するなど、部活動での生徒の活躍や教員の指導の充実が素晴らしい成果を挙げており、特色ある教育が推進されている。

### ○ 安心して学べる教育環境の整備

- ・ 昨今の生徒指導等における課題や問題は、学校だけではなかなか解決できないほど多

様化・複雑化している。

その状況の中で、いじめや不登校等の問題に対しての取組の充実を目指した機構改革として、平成 25 年度から生徒指導支援室が設置された。学校と教育委員会との連携がより一層推進され、学校へのサポート体制が整った。

- ・ また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談活動も、福祉と教育の融合の視点をもって取り組まれ、学校や家庭への大きなサポートとなっている。今後も、引き続いての充実を期待する。
- ・ 耐震化、食育の充実については、総合評価が“A”となる成果を挙げることができた。

## ○ 信頼される学校づくりについて

- ・ 教職員資質向上事業における各学校・園での研修等の充実は、学力向上や豊かな心の育成、体力向上に向けて欠かせない。そのための予算の増額などによる支援も、引き続きお願いしたい。

## ○ 子ども・若者のフォローアップ（青少年の健全育成）について

- ・ 青少年野外活動センターについては、様々な状況や参加者のニーズ等を勘案しながら有効性の確保をお願いしたい。
- ・ 広報啓発や子ども見守り活動、体験学習の機会の提供などは、少年補導員や青少年指導員、警察等、関係期間・団体の協力や連携のもと、成果を挙げている。引き続き、充実をお願いしたい。
- ・ 教育相談活動や適応指導教室についても、平成 25 年度の機構改革により、生徒指導支援室の所管として運営された。学校との連携が更に充実するなど、子どもや学校、家庭をサポートする体制づくりが進んでいる。

## ○ 学童保育の充実について

- ・ 子どもや保護者が安心して適切な保護を受けることのできるよう、施設改修や指導員研修、小学校との連携の更なる充実を期待する。

## ○ 生涯学習機会の充実、スポーツ団体の支援、中央公民館活動の活性化、スポーツ施設維持・運営事業について

- ・ 大人の参加や利用が増加しており、取組の工夫や努力の成果の現れである。中央公民館の利用者数は、目標としていた 83,000 人を達成することができ、素晴らしい。今後は、年代によるテーマ設定の工夫などにも、更に取り組んでいただきたい。
- ・ 少年スポーツの指導に当たっては、技術指導や勝敗に偏った指導ではなく、スポーツの楽しさや喜び、礼儀や忍耐といった、生涯スポーツの視点を大切にされた指導を大切に、裾野を広げる取組をお願いする。また、社会教育と家庭教育とのつながりについても、研究していただきたい。
- ・ 公民館活動では、参加者が学んだことを、ボランティア等で学校・園の子どもたちに還

元していくような取組もできないか。学校教育課との連携も探っていただきたい。

○ **図書館機能の充実、博物館機能の充実、尼寺廃寺跡整備の推進、文化財の保護・管理**

・ 移動図書館車「ぶっくる号」や小・中学校との連携による学校教育連携事業の郷土学習授業（博学連携教育）は、子どもたちの読書活動や地域文化への理解推進に大きな成果を挙げている。

・ 香芝市内の文化財は、子どもたちに郷土への愛着や誇りを高めるものであり、子どもたちに身近で興味ある存在となるよう、さらに工夫や努力をお願いします。

## ○ 総括

以上のように、平成 25 年度は、学校、家庭、地域、教育委員会とのつながりや組織間の連携にかかわっての工夫が多くなされ、それに基づいた積極的な取組が進められた。このつながりを大切にし、PTA、自治会、関係団体との連携も更に深め、香芝市の子ども、市民、教育のために、益々の充実・発展を、教育委員会のみなさんをお願いしたい。

香芝市教育委員会においては、香芝市の子どもたちや市民のために、工夫を重ねながら、諸事業が執行されている。特に、前年度までの取組や将来目標の実現に向けて、それぞれの施策や取組事業ごとに、自己評価や改善を重ね、よりよいものにしようとする姿勢が伺える。

## 知見者名簿

畿央大学教育学部 教授	島 恒生
香芝市社会教育委員会 議長	山下 幸二
香芝市 P T A 協議会 会長	奥野 綾子



【知見者と教育委員会事務局職員との懇談会】

### 3. 資料

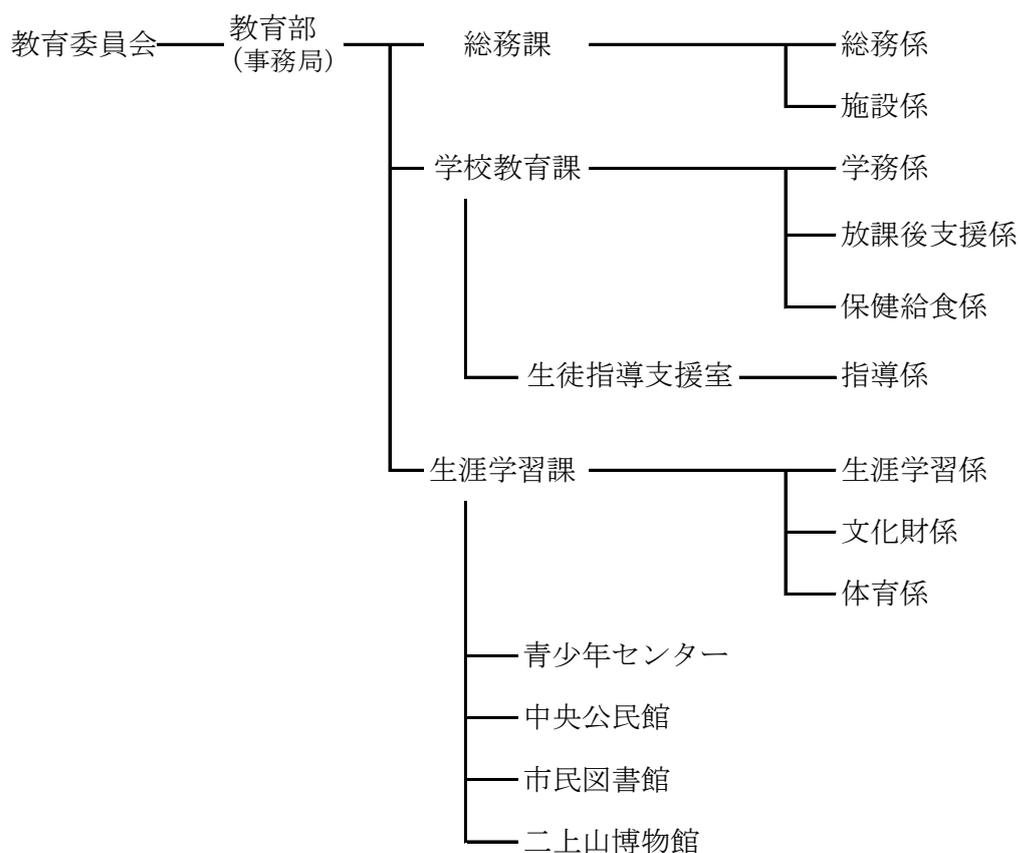
#### (1) 教育委員会の概要

・教育委員及び教育長

(平成26年4月1日現在)

役職名	名前	任期
委員長	粕田 保	平成25.10.1 ~ 平成29.9.30
委員長職務代理者	日高 初美	平成24.10.12 ~ 平成28.10.11
委員	大前 珠己	平成24.10.12 ~ 平成28.10.11
委員	中木 秀一	平成22.10.1 ~ 平成26.9.30
教育長	廣瀬 裕司	平成23.10.1 ~ 平成27.9.30

・教育委員会組織図



## (2) 平成25年度 教育委員会活動状況

(平成25年4月～26年3月)

月	日	行 事 名
4	9	小学校入学式
	10	中学校入学式
	11	入園式
	24	教育委員会定例会
	27	公民館開講のつどい
5	7	縣市町村教育委員会連合会会議
	12	香芝市選手権大会
	18	香芝市PTA協議会総会
	21	教育委員会定例会
6	4	市町村教育委員長・教育長会
	18	香芝市青少年健全育成協議会総会
	26	教育委員会定例会
7	7	奈良県民体育大会壮行会
	6	香芝市青少年健全育成協議会推進大会
	25	教育委員会定例会
8	23	公立学校施設整備期成会定期総会
	27	教育委員会定例会
9	28	小学校運動会
	29	小学校運動会
	30	教育委員会定例会
10	2	中学校体育大会
	5	小学校・幼稚園運動会
	17	学校訪問
	18	学校訪問・近畿市町村教育委員研修大会
	21	学校訪問
	25	学校訪問
	28	学校訪問
	29	教育委員会定例会
	31	学校訪問
11	5	学校訪問
	6	学校訪問
	9	公民館まつり
	12	学校訪問
	18	学校訪問
	20	教育委員会定例会
	26	教育委員会先進地視察
	27	教育委員会先進地視察
12	25	教育委員会定例会
1	13	香芝市成人式
	19	香芝市マラソン大会
	23	香芝市PTA協議会教育講演会並びに教育委員会との懇談会
	31	教育委員会定例会
2	20	教育委員会定例会
	22	教育委員会表彰
3	15	中学校卒業式
	16	春のつどい
	18	卒園式
	19	小学校卒業式
	20	教育委員会定例会

## (3)平成25年度教育委員会定例会の開催状況について

(平成25年4月～平成26年3月)

開催月日	種別	番号	案件	顛末	
4	24	議	8	香芝市社会教育委員の委嘱について	原案可決
		議	9	香芝市公民館運営審議会委員の委嘱について	原案可決
		承	2	香芝市学校医・学校歯科医・学校薬剤師の委嘱に関する専決処分の承認について	原案承認
		承	3	香芝市就学指導委員会委員の委嘱に関する専決処分の報告と承認について	原案承認
		報	2	香芝市教育委員会が管理する行政文書の開示に関する専決処分の報告について	報告受理
		報	3	香芝市教育委員会が管理する行政文書の開示に関する専決処分の報告について	報告受理
		報	4	香芝市教育委員会が管理する行政文書の開示に関する専決処分の報告について	報告受理
		報	5	香芝市図書館条例施行規則の一部改正に関する専決処分の報告について	報告受理
5	21	議	10	香芝市教育委員会感謝状贈呈要綱を制定することについて	原案可決
		議	11	香芝市教育委員会感謝状被贈呈者の決定について	原案可決
		議	12	香芝市幼児教育の基本方針を定めることについて	継続審議
6	26	議	13	平成25年度香芝市立五位堂小学校等の学校評議員の委嘱について	原案可決
		議	14	香芝市スポーツ推進委員の委嘱について	原案可決
		報	5-2	香芝市教育委員会が管理する行政文書の開示に関する専決処分の報告について	報告受理
		報	6	香芝市教育委員会が管理する行政文書の開示に関する専決処分の報告について	報告受理
		報	7	香芝市教育委員会が管理する行政文書の開示に関する専決処分の報告について	報告受理
		報	8	香芝市教育委員会が管理する行政文書の開示に関する専決処分の報告について	報告受理
		報	9	香芝市教育委員会が管理する行政文書の開示に関する専決処分の報告について	報告受理
		請	1	香芝市総合プール	不採択
		報	10	香芝市教育委員会が管理する行政文書の開示に関する専決処分の報告について	報告受理
		報	11	香芝市教育委員会が管理する行政文書の開示に関する専決処分の報告について	報告受理
		7	25	議	15
報	12			香芝市社会教育委員の委嘱に関する専決処分の報告について	報告受理
議	12			香芝市幼児教育の基本方針を定めることについて（継続審査）	原案取下
議	12			香芝市幼児教育の基本方針を定めることについて（継続審査）	原案取下
8	27	議	16	平成25年度香芝市の教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について	原案可決
		報	13	香芝市いじめ・不登校等対応委員会委員の委嘱に関する報告について	報告受理
		報	14	香芝市史跡設備検討委員会委員の委嘱に関する報告について	報告受理
		報	15	香芝市史跡設備検討委員会委員の解嘱に関する報告について	報告受理
		請	2	香芝市総合プール	不採択
9	30	選	1	香芝市教育委員会委員長の選挙について	指定
		諮	1	香芝市教育委員会委員長の職務代理者の指名について	指名推選
		議	17	香芝市教育委員会事務局職員の任命について	原案可決
		議	18	香芝市立幼稚園及び中学校における臨時講師の任命について	原案可決
		報	16	香芝市教育委員会が管理する行政文書の開示に関する専決処分の報告について	報告受理
		報	17	香芝市教育委員会が管理する行政文書の開示に関する専決処分の報告について	報告受理
		報	18	香芝市史跡設備検討委員会委員の委嘱に関する報告について	報告受理
10	29	報	19	香芝市教育委員会が管理する行政文書の開示に関する専決処分の報告について	報告受理
11	20	諮	2	平成25年度香芝市一般会計補正予算（第3号）について	原案承認
		諮	3	平成25年度香芝市一般会計補正予算（第4号）について	原案承認
12	25	報	20	香芝市教育委員会指定管理者選定委員会委員の委嘱に関する報告について	報告受理
		報	21	道徳教育指導員の委嘱に関する報告について	報告受理
		承	4	香芝市教育委員会事務局の職員の職の設置に関する規則の一部を改正に関する専決処分の報告及び承認について	原案承認
1	31	議	1	平成25年度香芝市教育委員会表彰被表彰者の決定について	原案可決
		報	1	香芝市社会教育委員の解嘱に関する報告について	報告受理
		報	2	香芝市教育委員会が管理する行政文書の開示に関する専決処分の報告について	報告受理
2	20	諮	1	平成25年度香芝市一般会計補正予算（第5号）について	原案承認
		諮	2	平成26年度香芝市教育費予算について	原案承認
		諮	3	香芝市社会教育委員に関する条例の一部を改正することについて	原案承認
		諮	4	香芝市有料公園施設の指定管理者の指定について	原案承認
3	20	議	2	平成26年度香芝市学校教育の指導方針の策定について	原案可決
		議	3	香芝市立中学校各種大会出場補助金交付要綱の一部を改正することについて	原案可決
		報	3	香芝市社会教育委員会議規則の一部を改正する規則について	報告受理

#### (4)平成26年度 教育部重点目標

##### 基本方針（ビジョン）

教育部は、平成26年度「創る、学ぶ、育つ ～子どもの夢をはぐくむ香芝の教育～」を学校教育の指導方針に掲げ、教育委員、教育長指導の下、各学校、幼稚園、教職員、事務局職員に対して周知を図り、一丸となって目標達成、園児、児童及び生徒の安全、安心と教育充実のため取組みを進めます。また、保護者や地域とも連携を密にして、確実に認められる園、学校運営に努めます。また、放課後支援の充実を図るとともに、「子ども子育て支援新制度創設」を背景に、子育て環境づくりを推進します。生涯学習においては、これまでの課題を整理し、より多くの市民参加が得られ、「だれでも・どこでも・いつでも」学び、楽しめる環境の充実を図ります。このように学校教育と社会教育を教育の基本に掲げ、次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまちを目指します。

##### 重点目標

###### (優先順位1) 学校施設等の耐震化の促進（継続）

香芝市耐震改修促進計画では、市有の特定建築物については、平成27年度までに耐震化率90%とすることを目標としています。学校等の施設については、児童生徒たちの生活の場となっていることから、優先的に耐震化を進め、平成27年度には耐震化率100%とすることを目標に施設の耐震化を推進しています。また、近年発生した大規模な地震では、天井材の落下などいわゆる『非構造部材』の被害が発生しています。これらの被害は、構造体の被害が軽微な場合も生じる可能性があることから早期に非構造部材の耐震化計画を策定します。

###### (優先順位1) 第2次生涯学習推進基本計画の策定（新規）

平成13年に策定した「生涯学習推進基本計画」は13年が経過し、社会的背景も随分と変化してきました。当市では、総人口の増加が続き、その中でも年少人口が増加し、また、一方で人口の高齢化も進んでいることは否めず、市民の生活ニーズや学習ニーズも多様化しています。このような地域特性に応じて、市民が生涯にわたり学習して暮らすことができる地域づくりを推進していくための体制の再構築を盛り込み、また、現在の基本計画の検証を踏まえ、「第2次生涯学習推進基本計画」の策定に努めます。

###### (優先順位1) 児童・生徒の食育の推進（継続）

「食育」は「知育」「体育」「徳育」と並び子どもたちの育成のための重要な要素であることから、給食を柱として様々な食体験ができるような取組みを進めます。また、中学校における完全給食の実施の是非について、平成24年度は中学校給食検討委員会を設置し、同委員会より一定の方向性を示す報告書が策定されました。平成25年度については、その報告書に基づき、実施方式、実施時期、実施スケジュールなど実施計画案を策定する「中学校給食実施計画策定会議」を開催しました。平成26年度では、給食センター建設に向けて用地の確保及び設計を開始します。また、中学校の配膳室の整備にも努め、中学校給食の早期実施、完全給食を目指します。

###### (優先順位4) 放課後子どもプランの推進（新規）

放課後子どもプランは、「放課後児童健全育成事業（学童保育所）」と「放課後子ども教室推進事業」が連携し、放課後の子どもたちの安全で安心な居場所づくりを推進する事業です。しかし、一部の学童保育所で待機児童が出るなど、入所希望者は増加傾向にあります。平成27年度に制定される「子ども子育て支援制度」では、全学年が入所対象となり、さらなる入所希望が見込まれることから、ますます学童保育利用者への負担が生じる恐れがあります。運営方式についても、現在の公設公営の効果を検証しながら、増え続ける保育ニーズに効果的にサービスを提供する方策について研究しなければならない時期となっています。また、「放課後子ども教室事業」においても、小学校10校のうち4校が未実施であります。このことから、全ての児童に対応した「放課後子どもプラン」を推進するため、学童保育所及び小学校間での格差を是正する取組みが必要となります。

#### (優先順位 4) 就学前教育の充実と幼保一体化への検討 (継続)

幼児期は、知的・感情的、人間関係等のあらゆる側面において大きく成長する時期であり、生涯にわたる学習の基礎を培う大切な時期であるという考えに基づき、幼稚園・保育所、家庭、地域といった様々な環境において、それぞれの有する教育機能を互いに発揮し、バランスを保ちながら、幼児の自立に向けて、幼児の健やかな成長を支える大切な役割を果たさなければなりません。

6歳を迎えると等しく就学する子どもたちにとって、家庭環境、子どもの育ちに対する地域の理解や支援の有無、まして通っているのが保育所か幼稚園かなどによって、成長するための機会が異なることは望ましいことではありません。また、小1プロブレムが問題となっている昨今では、幼児期から就学期への連続性の重要性についても十分に留意した取り組みがなされるべきです。

また、政府が進める「子ども・子育て関連3法」に伴う「認定こども園」の実施に向けて、平成26年度に策定される「子ども・子育て支援事業計画」をふまえ、実施までのプロセス等を切迫感をもって研究すべき時期であると考えます。

#### (優先順位 4) 特別支援教育体制の整備 (継続)

特別支援学級に入級する児童生徒や、通常学級に在籍しながら特別な支援が必要と認められる児童生徒の数は毎年増加しています。また、発達障害のある児童生徒が起こす生徒指導上の問題も多く起こっています。このようなことから、特別支援教育の充実が不可欠となっています。市内のすべての小・中学校において、特別支援教育支援員を配置し、個に応じた適切な指導及び必要な支援を行うことのできる支援体制が必要です。

通常学級に在籍する児童生徒の中にも、学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、高機能自閉症など、さまざまな障害のある児童生徒が多くいます。このような現状の中、教員が障害の特性や対処法などを理解しておくことはきわめて重要であります。学習面や生活面でのトラブルを極力避ける為にも、教員一人ひとりの特別支援教育に対する理解と資質の向上が必要です。

#### (優先順位 7) 学校・地域パートナーシップ事業の充実 (継続)

「地域と共にある学校づくり」を推進し、学校を核とした地域コミュニティを再構築するため、平成25年度より学校・地域パートナーシップ事業として再編され、保護者・地域が学校運営に〈参画〉し、教職員・保護者・地域住民が〈協働〉して、課題解決に取り組むこととなりました。それに伴い、各学校に校務分掌として「コミュニティ部」を設置し、保護者・地域とパートナーシップの関係で取り組めるよう、各学校に「学校コミュニティ協議会」を組織します。

各中学校区に地域コーディネーターを置き、学校支援についての調査・分析を行い、円滑に活動できるよう援助します。また、中学校区内の小・中学校の学校コミュニティ協議会の代表(教職員及び保護者・地域の代表)と地域コーディネーターからなる、「中学校区コミュニティ協議会」を設け、各中学校区における教育課題の解決にあたっていきます。

#### (優先順位 7) 関係機関との連携による読書活動支援 (継続)

平成13年に制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、国は、すべての子どもが、あらゆる機会と場所において、自主的に読書活動を行うことができる環境を整備するよう定めた基本計画を策定されています。本市も「子ども読書活動推進計画」を策定し、乳幼児サービスや学校等関係機関との連携などをはじめとする取り組みを進めてきました。しかしながら、依然として進む傾向にある読書離れについて、本市も例外とはいえない状況です。そこで、さらに保育所・幼稚園・学校等との連携を深め、読書活動の推進を図っていく必要があると考えます。

今後は、関係各機関との連携を深めることにより、子どもたちが読書に親しむ機会が増え、子どもたちの自主的な読書活動に結びつくことが期待できます。

### (優先順位7) 参考業務（レファレンス）の周知・充実（継続）

図書館司書が、市民の課題調査に対し、蔵書や図書館機能を活用し、資料紹介や課題解決を手助けする参考業務（レファレンスサービス）については、図書館の重要な役割でもあることから、日々、業務を行っているものの、図書館全体の利用状況からすると、一部の利用にとどまっているように見受けられます。また、所蔵調査など簡単な調査も多いことから、まだまだ図書館機能を十分に使いこなせていない面もあります。そこで、参考業務の周知・充実を図ることにより、貸出にとどまらない市民の図書館利用の幅を広げていく必要があると思われまます。

参考業務（レファレンス）を知ることで、利用の幅が広がり、利用者層の拡大や図書館利用促進につながるものと思われまます。また、市民自身が図書館資料や図書館機能を十分に活用することにより、市民文化の向上、地域社会の健全化を市民自ら考え、判断することに寄与することが期待できます。

### (優先順位7) 博物館事業の活性化（継続）

本市の歴史文化発信拠点として、石の博物館の特色を打ち出した事業を展開して活性化を図り、市民の高度化する学習ニーズに対応した一過性にならない継続して学ぶことができる学習環境の充実を図ります。また、市内小・中学校との連携による郷土学習授業（博学連携教育）を継続的に実施し、児童・生徒に地域文化への理解と関心を高めるために多様な学習機会を提供します。

博物館事業への参加者は年々増加する傾向にあり、参加者からもさらなる事業の拡大・内容の充実を求められています。また、学校教育との連携では、小学校3年生対象の副読本『わたしたちの郷土香芝』で郷土を知る学習を重視した教育が実施され、学習指導要領においても積極的な地域博物館の利用が位置づけられていますが、実際、歴史を学習する学年の利用が少なかったことから博学連携教育がスタートしました。昨年に引き続き、同検討委員会において授業方法や内容の充実を図りつつ、課題の解決に向けた取り組みを推進します。

市民に優れた地域の魅力ある歴史資源を活用した質の高い学習機会を提供し、積極的な市民参加を促進します。博学連携教育では、児童・生徒が教室での授業とは違った感動や、本物に触れることで得られる教育的効果が期待でき、郷土学習への理解を深める子どもたちの育成に貢献できます。

## 創る 学ぶ 育つ

～ 子どもの夢をはぐくむ香芝の教育 ～



人格の完成を目指し、心身ともに健康な子どもを育てる

### 《 学校教育の基本 》

- (知) 自ら学び、自ら考える習慣を確立し、自主的で主体的な学習態度を培い、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる。
- (徳) 個人の尊厳を重んじ、真理と正義とを希求し、公共の精神を尊び、自と他の存在を認め合う心を育てる。
- (体) 規律ある生活習慣を身に付けるとともに、体力に応じた活動を奨励し、健康でたくましい心身を育てる。

### 〈 具体目標 〉

- 基礎的な知識・技能を習得させ、学んだことを活用する力を育成するとともに、主体的に学ぶ態度を養う。
- 真理を求め、生命を尊び、自然を愛し、崇高なものに感動する心を育てる。
- 正しい判断力と強い意志を養い、規範意識を高め、自律的な生活態度を育てる。
- 勤労観・職業観を養い、主体的に進路を選択する能力を育てる。
- 自他敬愛に基づく人間関係を深め、社会連帯の精神と社会に貢献する態度を養う。
- 郷土や自国に対する理解と愛情を培い、国際理解を深めることを通して、互いに尊重し合う態度を育てる。
- 健康的な生活習慣を養うとともに、自発的・自主的な体育的活動をすすめ、たくましい心身を育てる。
- 自然体験や社会体験等を通して、環境に対する人間の責任と役割を理解し、保全・改善・創出に主体的に働きかける態度を育てる。

# 校種別指導の重点



## 《確かな学力の育成》

－基礎・基本の定着を図り、それらを活用する力を育む－

- 幼稚園**
- ・調べる、比べる、尋ねるなどの様々な手法を組み合わせ、楽しみながら課題を見だし解決する活動を工夫する。
  - ・感じたことや経験したことを自分なりの言葉で表現する力を育成する。
- 小学校**
- ・個に応じた指導の充実とともに、基礎的・基本的な知識及び技能を定着させるための学習活動を工夫する。
  - ・各教科等において、記録、要約、説明、話し合いなどの言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力を育成する。
- 中学校**
- ・個に応じた指導の充実とともに、小学校の学習内容を考慮し、基礎的・基本的な知識及び技能を定着させるための学習活動を工夫する。
  - ・各教科等において、記録、要約、批評、論述などの言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力を育成する。

## 《豊かな人間性の育成》

－正しく判断し、行動する力を育む－



- 幼稚園**
- ・身近な人々との関わりを深め、愛情や信頼感、他の人を思いやる心を育む。
  - ・自然や身近な動植物に親しませ、生命を大切にする心を育む。
  - ・協同して遊ぶことを通して、よいことや悪いことに気付かせ、ルールを守ろうとする態度を養う。
- 小学校**
- ・自分や他の人を理解し、生命を大切にする心や思いやりの心、正義感、責任感を育む。
  - ・様々な体験を通して、豊かな感性や情操を培い、基本的な生活習慣や社会生活上のルールを身に付けさせる。
- 中学校**
- ・自分や他の人への理解を深め、生命を大切にする心、思いやりの心、人権を尊重する心や自律心、責任感、正義感を育む。
  - ・職場体験活動やボランティア活動などを通して、社会生活上のルールやマナーを身に付けさせ、社会参画しようとする態度を養う。

## 《たくましい心身の育成》

－体力向上に向けて、進んで運動に取り組む力を育む－



- 幼稚園**
- ・いろいろな遊びの中で十分に体を動かし、伸び伸びと行動することを通して、充実感や満足感を味わわせ、健康な体づくりの基礎を培う。
- 小学校**
- ・運動遊びや一校一運動などを行うことにより、進んで運動を楽しもうとする態度やいろいろな運動ができる力の基礎を育てる。
- 中学校**
- ・運動部活動など、様々な運動の体験を通して、体力向上を図るとともに意欲的に運動に取り組む態度や、生涯にわたって運動に親しむ資質を育てる。

# 魅力と活力ある園・学校づくりのために

## ○特色ある教育活動

- ◇ 特色ある教育課程の編成 ・ 子どもたちが主体的・創造的に活動できるような教育課程を編成する。
- ◇ 指導方法の工夫改善 ・ 一人一人の特性等に応じた指導や少人数指導、外部人材の活用など、指導の方法や体制の工夫改善を図る。
- ◇ 学校評価の活用 ・ 適切な評価項目と数値目標を定め、自己評価、学校関係者評価を実施し、それらの結果を活用して学校改善を図る。

## ○教員の資質の向上

- ◇ 自己の意識の向上 ・ 豊かな人権感覚・実践的指導力を身に付ける研修を積み、自己申告評価制度を活用して、さらに自己の意識改革を図る。
- ◇ 指導力の向上 ・ 授業公開、授業互観、研究授業等を積極的に行い、指導力の向上に努める。
- ◇ 園・学校の組織の強化 ・ 園・校長を中心とした組織づくりを強化し、学校評価による成果や課題を共有し、今後に向けた方策に取り組む。

## ○家庭・地域との連携・協働

- ◇ 積極的な情報発信 ・ 地域の人々とも進んで挨拶し、教育活動の状況や学校評価の結果などについて、積極的な情報の発信に努める。
- ◇ 学校評議員制度の活用 ・ 学校評議員に学校運営の状況を十分説明し、保護者や地域住民等の意向を反映した学校づくりを進める。
- ◇ 地域と共にある学校づくりの推進 ・ 保護者や地域住民が学校運営に参画し、学校と協働して子どもの課題解決を図る学校・地域パートナーシップ事業を推進する。
- ◇ 郷土愛の育成 ・ 博物館などと連携し、香芝市の自然や歴史や文化を学ばせ、郷土への愛着と誇りを持たせる。

## 今日的な課題への対応



- ◎自他の権利を認め合う人権教育
- ◎思いやりの心を育てる道德教育
- ◎規範意識を培う生徒指導
- ◎生きる希望を育むキャリア教育
- ◎個々を伸ばす特別支援教育
- ◎家庭・地域と連携した食育
- ◎実践的な安全・防災教育
- ◎豊かな感性を育てる読書活動



いじめ撲滅宣言のまち

社会全体で いじめを しない させない 見逃さない

## 具体的な実践課題

### ○ 創意工夫した授業(保育)の実践と授業力の向上

「教師は授業で勝負する」、「授業は教師の生命線である」という意識を持って、各園・学校においては国・県・市の指定研究を進んで受けるとともに、授業公開、授業互観、研究授業等を積極的に行い、授業改善と授業力の向上を図る。

### ○ キャリア教育の充実

子どもたちが自分の将来に夢や希望をもって学び、社会的自立・職業的自立に向けて必要な意欲・態度や能力を身に付けられるようにするため、それぞれの発達段階に応じて、キャリア教育の充実を図る。

### ○ 道徳教育の充実

子どもたちが基本的な生活習慣、規範意識、自他の生命の尊重、自尊感情、他者への思いやり、郷土に対する誇りや愛情などの道徳性を養い、主体的に判断し、適切に行動する力を育てるため、道徳の時間を核として道徳教育の充実を図る。

### ○ 食育教育の充実

子どもたちが、食育により健康な心身をつくり、健康長寿を目指すよう、小学校では食生活の基礎の確立、中学校では自立した食生活を実践できる力を獲得するため、家庭や地域と連携した具体的・実践的な食育の充実を図る。

### ○ 園・学校内外の生徒指導の充実、安全確保の推進

園・学校内において、安心な園・学校生活が送れるようにいじめの早期発見・早期対応の強化を図る生徒指導の充実に努める。また、実践的な防災教育や防犯教室等の実施に努め、保護者・地域と共に「子ども見守り活動」などの安全指導の推進に努める。

### ○ 校種間の連携

中学校区ごとの連携体制の確立に努め、幼保・小・中の連携を密にして、それぞれの教育課題を見通した系統的な指導や学習の推進を図る。



## 香芝市立学校教員信条

1. 幼児・児童・生徒や地域社会から信頼され敬愛される指導者になる。
2. 学校教育の各領域にわたって、調和のある指導に情熱をかたむける。
3. 幼児・児童・生徒の伸びゆく生命・人権を尊重し、健康と安全に万全を期す。
4. つねに教育の専門職であることを自覚し、教養を高めるとともに、一層指導力の向上に努める。
5. 幼児・児童・生徒の指導を一層充実するため、家庭・地域社会との連携を積極的にすすめる。

毎月25日は

# ニコニコあいさつの日

～はじめよう、あいさつから～

香芝市の将来像である「笑顔と元気！！ 住むなら かしば」を受け、笑顔で元気よくあいさつを交わすことで、人と人のつながりを深め、よりよい地域社会づくりを進めていきます。

市内の幼稚園・小学校・中学校において、豊かな心や規範意識・社会性を育むためにも、基本的な生活習慣である「あいさつ」に重点を置き、あいさつの励行に取り組んでいきます。園・学校はもちろん、家庭や地域においても、笑顔で元気よくあいさつをすることは、家庭や地域の連帯感が高まり、また、子どもたちが健やかに育ち、安全で安心な住みよい社会を築くためにも、とても重要なことです。

- ◎ 園・学校でのあいさつから
- ◎ 家庭でのあいさつから
- ◎ 地域でもあいさつを



ニコ（25）ニコにちなんで、毎月25日を「ニコニコあいさつの日」とし、あいさつについて考え、その意識を高めていくため、市内の園・学校において、「あいさつ」運動を進めていきます。

園・学校においては、25日が休業日のときは、その前の日とします。

さわやかなあいさつが、市内各地で交わされる、

そんな素敵な街にしていくために、みんなで、

「あいさつの輪」を広げていきましょう！

香芝市教育委員会

(6) 児童・生徒・園児数一覧

(平成26年5月1日現在)

小学校	22年		23年		24年		25年		26年		前年比	
	クラス数	児童数	クラス数	児童数								
五位堂	16	513	16	507	17	508	17	483	17	481	0	-2
下田	24	762	24	745	24	760	24	770	24	763	0	-7
二上	20	673	22	739	23	783	26	811	25	826	-1	15
志都美	12	350	12	375	12	360	12	352	12	347	0	-5
関屋	12	340	12	356	12	361	12	377	12	389	0	12
三和	12	345	12	361	12	364	12	381	12	387	0	6
鎌田	8	205	9	194	8	208	8	201	8	199	0	-2
真美ヶ丘東	19	626	19	630	18	608	18	613	18	587	0	-26
真美ヶ丘西	12	356	12	353	12	351	12	340	12	332	0	-8
旭ヶ丘	38	1,355	39	1,376	37	1,303	37	1,253	35	1,187	-2	-66
計	173	5,525	177	5,636	175	5,606	178	5,581	175	5,498	-3	-83

中学校	22年		23年		24年		25年		26年		前年比	
	クラス数	生徒数	クラス数	生徒数								
香芝	17	645	17	656	16	639	17	657	17	635	0	-22
香芝西	9	345	12	369	12	419	12	429	13	457	1	28
香芝東	17	643	18	680	18	709	20	723	19	736	-1	13
香芝北	18	661	18	676	20	760	20	781	21	842	1	61
計	61	2,294	65	2,381	66	2,527	69	2,590	70	2,670	1	80

幼稚園	22年		23年		24年		25年		26年		前年比	
	クラス数	園児数										
五位堂	4	86	4	74	3	80	4	79	3	68	-1	-11
下田	5	131	5	140	4	131	4	122	4	120	0	-2
二上	4	118	4	130	4	116	4	113	4	109	0	-4
志都美	3	59	2	49	2	45	2	40	2	38	0	-2
関屋	3	57	2	52	2	59	2	56	2	44	0	-12
三和	3	67	3	70	2	60	3	64	3	65	0	1
鎌田	2	30	2	33	2	31	2	33	2	36	0	3
真美ヶ丘東	6	151	5	129	4	100	5	131	5	126	0	-5
旭ヶ丘	8	219	7	185	6	155	5	127	4	111	-1	-16
計	38	918	34	862	29	777	31	765	29	717	-2	-48